

福井市夜間景観ガイドライン

～ やさしい光が織りなすまち ふくい ～

平成 20 年 7 月

CONTENTS

1. はじめに	1
(1) 福井市における夜間景観の重要性	1
(2) 夜間景観ガイドラインの目的、位置づけ	3
2. 福井市の夜間景観の基本的構成	6
3. 福井市の夜間景観の現状	8
(1) 主要な夜間景観の眺望（視点場としての状況）	8
(2) 主要な界隈（福井都心地区）における夜間景観	9
(3) 主要な界隈（福井都心地区）においてライトアップされた建築物等の例	12
4. 福井市の夜間景観における主な課題	13
5. 魅力ある夜間景観形成の目標	15
(1) 夜間景観形成の基本理念	15
(2) 夜間景観形成の目標	15
6. 魅力ある夜間景観の形成に関する基本方針	16
(1) 基本方針の体系	16
(2) 魅力ある夜間景観の形成に関する基本方針	17
7. 夜間景観における照明の要件	25
(1) 光色と演色性	25
(2) 照度の基準	26
(3) 主な光源と特徴	27
(4) 照明方式と主な特徴	28
(5) 照明計画における留意点	29
(6) 照明設備の保守と更新	31
8. 福井都心地区における夜間景観の魅力創出に向けた整備イメージ	32
(1) 福井都心地区の範囲と夜間景観形成の重要性	32
(2) 福井都心地区における夜間景観の整備・演出等の状況	33
(3) 界隈ごとの夜間景観の整備・演出イメージ	34
(4) 魅力ある夜間景観を楽しむ基本的な回遊ルートの設定	44
9. 光のデザインに関する今後の取り組み方	45

1. はじめに

(1) 福井市における夜間景観の重要性

- ・福井市では、美しい自然に歴史・文化が溶け込んでいる、日本の原風景が感じられる景観＝「福井らしい景観」を守るとともに、市民が誇りをもって、いつまでも住み続けたいと思うような、誰もが住んでみたいと思うような“心地よい”景観の形成を目指して、『福井市景観基本計画』を策定し、景観法に基づく『福井市景観計画』を策定しました。
- ・その中で、「夜間景観」は良好な景観を形成する構成要素の1つであると位置づけられており、福井市における夜間景観の重要性は以下のように整理されます。

① なぜ、今、夜間景観に取り組むのか

- ・近年、福井市内においてライトアップにより演出された建築物や、イルミネーションを用いた市民活動など、夜間の景観を良好に演出する取り組みが見られるようになり、市民の夜間の景観に対する意識も高まりつつあります。
- ・また、福井都心地区（※福井市景観基本計画に定める景観形成重点地区の区域。以下同じ。）内のＪＲ福井駅周辺や浜町界隈などにおいては、公共空間や建築物等を含めた様々な整備が進みつつあり、それらによって生まれる新しい「光」が、既往のまちなみに今までにはない変化を与えようとしています。
- ・これらの新しい「光」を計画的に誘導することで、望ましい「光」の在り方を実現することができるチャンスが今まさにあり、そのための方策を追求すべき時期にきていると言えます。

② 魅力ある夜間景観による効果

- ・魅力ある夜間景観は、福井市の魅力を高め、商業活性化や観光振興などのまちづくりを進めるとともに、全国にアピールしていく上で重要な側面の1つです。
- ・魅力ある夜間景観を創出することで、市民・来訪者の夜間の外出機会や福井市への滞在時間を増やすことができ、また、何度も訪れたいと思う気持ちにさせるなど、福井市全体の総合的な活性化が期待されます。
- ・特に福井都心地区は、もっとも福井らしさを実感できる場所であり、中でも、県都福井市の玄関口であるＪＲ福井駅周辺を含む中心市街地では、中心市街地活性化を進める上でも昼間とは違った魅力ある空間を演出することが必要です。
- ・このほか、夜間における光は、市民が安全で安心して暮らせる環境を創出する上でも重要な役割を担っています。
- ・また、魅力ある夜間景観は、道路や公共施設などの公共空間の光だけで生み出されるものではなく、住宅や店舗などの私的空間の光も重要となります。夜間景観を良くすることは、市民と行政の協働によるまちづくりの一貫であり、市民が主体的に取り組む総合的な地域づくりに欠かせない要素となっています。

《福井市における良好な景観形成の重要性》

(福井市景観基本計画より)

- 美しい水と緑と大地、悠久の歴史を未来へ受け継ぐ
- 世界に誇れる魅力を発信する
- 景観づくりは総合的な地域づくり

夜間景観の観点

【全国的な背景】

《市民ニーズの変化》

- ・量の豊かさから質の豊かさへと変化
- ・スポット的に楽しむ観光から地域の雰囲気全体を楽しむ観光へと変化

《夜の外出機会の増大》

- ・余暇時間の増大、24時間化した生活スタイルや都市活動、健康志向などによる夜の外出機会の増大

《都市間競争の激化》

- ・交通網の充実により生活圏や観光・交流圏が拡大し、都市の吸引力を高めるためには新たな魅力づくりが必要
- ・インターネット等の普及により全国どこにいても都市の情報が入手可能となり、都市の魅力をPRすることが必要

《照明技術の向上》

- ・LED等の新技術の開発・普及により多様な演出の仕方が可能

【福井市における背景】

《福井市景観基本計画》

- ・景観形成の方針の1つに「魅力ある夜間景観の創出」を掲げている

《福井市景観計画》

- ・景観形成基準の1つにショーウィンドー等からの光の活用を推奨している
- ・建築物等の外観に対して行う照明を特定照明として届出行為としている

《市民意識の高まり》

- ・ライトアップやイルミネーション等の自主的な取り組みが見られる

《県都の玄関口》

- ・新しく整備されたJR福井駅
- ・北陸新幹線の整備により交流圏の拡大(交流人口の増大)が一層期待される

《県都の顔づくり、中心市街地活性化》

- ・行政、商業、文化、交流機能等の集積地であり、多くの人が集まる場所
- ・福井市のまちづくり施策の大きな柱

《景観形成を重点的に進めるべき地区》

- ・福井都心地区(景観基本計画、景観計画)

【福井市における夜間景観の重要性】

- ◎光を良好にコントロールし、市民・来訪者の夜の外出機会や滞在時間を増やし、何度も訪れたいと思えるような魅力ある夜間景観を形成することが必要
- ◎特に、都市機能や景観資源が集積する福井都心地区は、もっとも福井らしさを実感できる場所として、夜間においてより魅力が増すような光の整備・演出が必要

(2) 夜間景観ガイドラインの目的、位置づけ

① 夜間景観ガイドラインの目的

○福井の個性を活かした夜間の魅力創出のあり方を示す

- ・福井らしい景観を守り、世界に誇れる美しい福井を創造するためには、福井固有の自然や歴史資源を保全・活用するとともに、道路・公園等の公共空間や建築物等を景観資源として良好にデザインすることが必要です。
- ・これらの景観資源は、夜間における福井市の魅力を創出する上で欠かすことのできない重要な要素であり、積極的かつ適正に活用していくことが重要です。
- ・この中で、道路や建築物等が集積する「街空間」における日常的な光が特に重要となるとともに、祝祭性やハレなど非日常的な光も重要となります。
- ・本ガイドラインは、福井固有の景観資源を活かしながらより魅力的な夜間景観の創出を図るため、夜間景観の形成に関する基本的な方針や考え方を示すとともに、日常・非日常を含めた光の整備・演出のあり方を示すことを目的とします。

○市民が快適に暮らせるための夜間の光のあり方を示す

- ・魅力ある夜間景観は、景観資源にだけ光を当てて構成されるのではなく、地域全体の雰囲気と一体となって構成されるものです。
- ・地域全体としての雰囲気を楽しむ夜間景観の構成を考えたとき、その中心となるのは「人」であり、人の視線に配慮した光の配置、歩いて楽しむ環境づくりが重要となります。
- ・一方、夜間景観の整備・演出は、福井を対外的にアピールして人を集めることだけが目的ではなく、光を適正に誘導し、夜間も安全で快適に暮らせる環境を創出することが前提となります。
- ・本ガイドラインは、安全で快適、楽しみながら歩ける歩行者空間を形成するとともに、地域全体の夜間の快適性を高めるための光の創出のあり方を示すことを目的とします。

○住環境及び自然環境にやさしい光のあり方を示す

- ・魅力ある夜間景観とは、ただ明るく照らせばいいという訳ではありません。特に近年では、屋外照明の不適切あるいは過剰な使用によって、生態系への悪影響、住環境の悪化や交通環境への障害などといった「光害（ひかりがい）」が問題となっています。
- ・また、照明計画を立てる際には、地球温暖化対策や省エネルギー対策などにも十分に配慮することが必要です。
- ・本ガイドラインは、光害の防止や自然環境への負荷の軽減を図るため、環境にやさしい適切な光のあり方を示すことを目的とします。

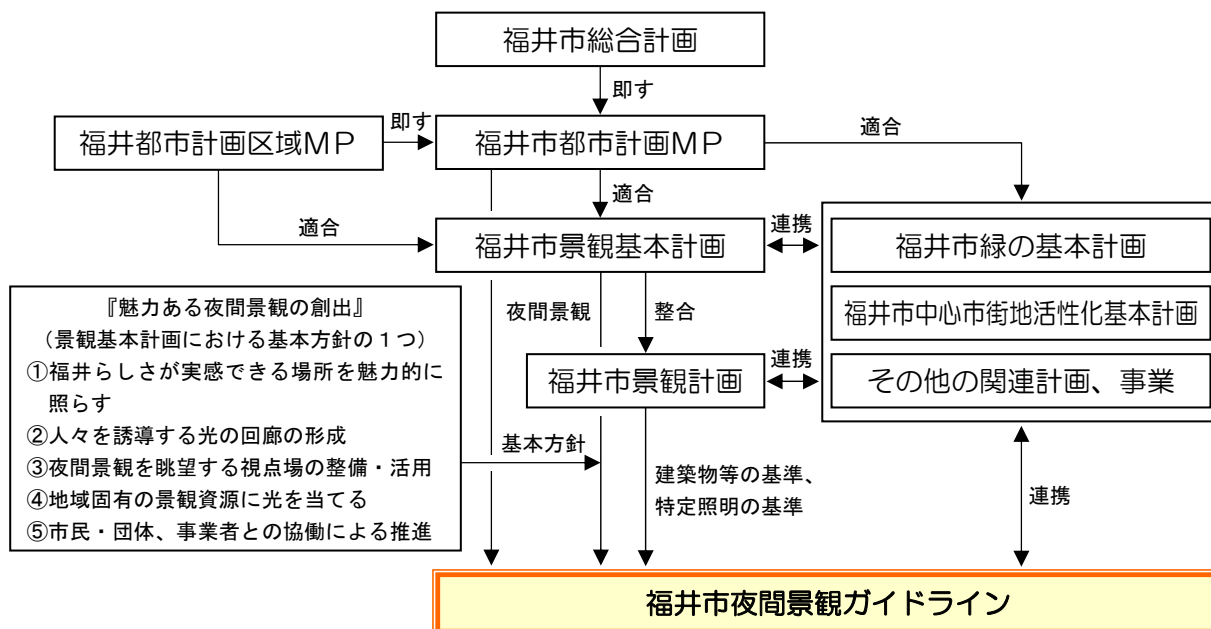
② 夜間景観ガイドラインの位置づけ

- ・魅力ある夜間景観の形成は、福井市景観基本計画が目標とする「四季彩織りなす風景都市～住みたくなる心地よい景観をめざして～」を実現するための重要な取り組みの 1 つであり、景観形成方針において「魅力ある夜間景観の創出」を掲げています。
- ・また、福井市景観計画では、建築物の景観形成基準の 1 つとして窓等開口部からの光を活かすデザインを推奨しているとともに、建築物等の形態・意匠を演出するためにその外観に対して行われる照明を「特定照明」として届出行為とするなど、魅力ある夜間景観の創出を図っています。
- ・さらに、魅力ある夜間景観の形成は、商業や観光の振興、来訪者の増加や回遊性の創出などの中心市街地活性化策、市民との協働によるまちづくりなど、上位関連計画や各種まちづくり施策を実現する上でも重要な要素の 1 つです。
- ・このほか、地域活力の向上や福井市全体の活性化を図るためには、地域固有の景観資源に光を当てることが重要であり、さらに、安全性や快適性など地域環境の向上にも配慮することが必要です。
- ・本ガイドラインは、上位・関連計画に掲げられた施策や事業を実現する際の夜間景観に関する配慮事項として、主に以下の 3 点を示します。

○各種事業を推進する上で、夜間景観に対して配慮すべき基本的事項

○夜間景観の整備・演出が特に重要な場所、整備方針や望ましい整備・演出方法等

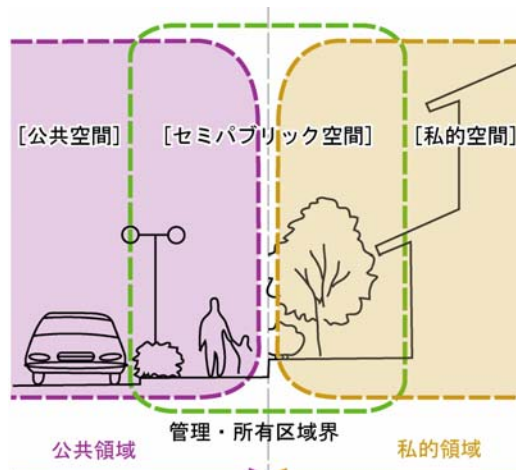
○市民や事業者との協働による夜間景観づくりに向けた取り組み方策



福井市夜間景観ガイドラインの位置づけ

③ 夜間景観ガイドラインとして検討する範囲

- ・本ガイドラインは、福井の魅力や賑わいを光によって向上・創出するとともに、地域の夜間環境の改善、市民との協働による取り組みを進めるため、福井市全域を対象とします。
- ・また、夜間景観を構成する領域は、「公共空間」と「私的空間」に大きく分けられ、さらに、両空間にまたがる領域は「セミパブリック空間」として捉えることができます。
- ・それぞれの空間領域ごとに以下のような役割や検討課題があり、本ガイドラインは、福井市の夜間の魅力や快適性を総合的に高めるため、全ての空間領域を検討の対象とします。



福井市夜間景観ガイドラインの検討範囲

構成領域	主な役割・検討課題
公共空間	・道路や公園、河川など夜間景観の骨格を構成する重要な空間です。 ・夜間景観の連続性や回遊性、テーマ性や界限性の創出、歩行者や自動車、地域生活の安全性を確保するための光のあり方を検討するとともに、市民や事業者の取り組みに対する先導役としても光を良好にデザインすることが重要です。
私的空間	・個人や事業者または公共団体などが所有する敷地内での建築物等は、まち全体の夜間景観を形成する上でも重要な空間です。 ・道路等の公共空間と一体となって夜間景観を形成するというよりは、店舗・事業所等の名称やデザインを主張するための光、あるいは、イルミネーションなどにより個人的に楽しむ光が中心となります。 ・また、地域における夜間の安全性や快適性を確保するためには、門灯などの私的空間における光も重要となります。
セミパブリック空間	・官民境界線を中心として、ライトアップやイルミネーションなど市民、事業者と行政が協働で取り組む場所、又は、ショーウィンドーなど私的空間のうち夜間景観に対して大きな影響を与える空間です。 ・単に自己を主張する光ではなく、公共空間と一体となって魅力ある夜間景観を創出するための光のあり方を検討することが必要です。 ・特に、多くの人が集まる「福井都心地区」においては、セミパブリック空間の光を良好に誘導することが重要となります。

2. 福井市の夜間景観の基本的構成

① 福井のロケーションに応じた夜間景観の在り方

- ・夜間景観の源となる「光」は、商業や業務、観光などの都市活動や道路などの公共空間が生み出す『明』の空間と、田園や山林、海岸などの自然空間によって形成される『暗』の空間に大きく分けられます。
 - ・『明』の空間は主に市街地であり、都市活動や都市生活の場として昼夜を問わず多くの人が滞在することから、魅力ある夜間景観の形成に取り組んでいくべき場所です。
 - ・その中にあって、商業や業務、行政、文化、交流機能などが集積する福井都心地区は『光の核』となる場所であり、特に重点的に夜間景観の形成を図っていく必要があります。
-
- ・この際、夜間景観を演出するうえでは地形的条件が大きな影響を与えます。起伏に富んだ地形であれば、高低差を活かした光の配置を行うことで立体的な夜間景観を演出することができ、夜間においても地形的特性を実感することができます。
 - ・しかし、福井市は広大な福井平野の中心に市街地が形成されていることから、夜間景観を演出するうえでは厳しい条件にあると言えます。
 - ・このため、福井市において魅力ある夜間景観を創出するためには、建築物から発生される光（窓等開口部や店先からの光）や光のつながりを意識することが特に重要となります。
 - ・また、平坦な福井平野の中心にまちの「目印」としてそびえる足羽三山では、夜間においてもそのシンボル性が感じられるように光を演出するとともに、愛宕坂などは坂のある景観として積極的に活用していくことが望まれます。
-
- ・これら福井都心地区から見る夜間景観は、「近景」が中心となることから、人の視点に配慮して光を適切に配置することが重要となります。
 - ・これに対して、足羽三山から楽しむことができる 360 度のパノラマは「中景」、福井平野の東西に広がる山並みから望むことができる福井平野の大パノラマは「遠景」が中心となることから、夜間景観を楽しむ視点場として活用していくことが望まれています。
-
- ・『明』と『暗』の空間には、そこに暮らす人々の生活が生み出す『日常的な光』の空間があり、『暗』の空間や『日常的な光』の空間にあっては、生態系などの自然環境や地域の生活環境を保全するため、過剰な光を避けることが必要となります。
 - ・また、『明』の空間を際立たせ、行く先の期待感を演出するためには、“暗さ”を大事することが必要です。魅力ある夜間景観とは、ただ明るければいいという訳ではなく、暗さの中にも温かさが感じられるような整備・演出を図っていくことが必要です。
 - ・もちろん、『暗』の空間にあって光を当てるべき地域固有の資源があり、光を使ったイベントなど、個性ある地域づくりや地域振興策として有効に活用することが必要です。

3. 福井市の夜間景観の現状

(1) 主要な夜間景観の眺望（視点場としての状況）



◆足羽山（自然史博物館屋上）からの眺望（近景～中景）

- ・足羽山の北東に位置する自然史博物館の屋上からは、市街地の夜間景観を 360 度見渡すことができますが、日常的には夜間に屋上にでることはできません。
- ・継体天皇像が置かれている三段広場からはかつて市街地を眺望することができましたが、桜等の樹木が生長したため、現在では一部視界が遮られます。



◆八幡山からの眺望（近景～中景）

- ・足羽山の南に位置する八幡山からは、市街地東部一帯の夜間景観を眺望することができます。
- ・足羽山、兎越山とともに足羽山公園として整備されており、展望広場が設けられています。



◆東山からの眺望（中景～遠景）

- ・福井平野の東部に位置する東山からは、市街地の東部地域を中心とした夜間景観を眺望することができます。
- ・一帯は東山運動公園として整備され、展望広場が設けられていますが、展望広場一帯は真っ暗な状況です。



◆深谷霊園からの眺望（中景～遠景）

- ・市街地の西部に近接する山並みの麓に整備された深谷霊園からは、市街地の西部地域を中心とする夜間景観を眺望することができます。
- ・写真手前側には、蛇行する日野川の流れを読み取ることができます（暗の空間）。
- ・特に視点場として整備された場所ではないため、一般には行きにくい環境にあります。

（山田清信氏 提供）



◆国見岳からの眺望（遠景）

- ・福井市の西部、標高約 656mの国見岳からは、市街地全体の夜間景観を遠景として眺望することができます。
- ・一帯は国見岳森林公園として整備されており、展望広場が設けられています。

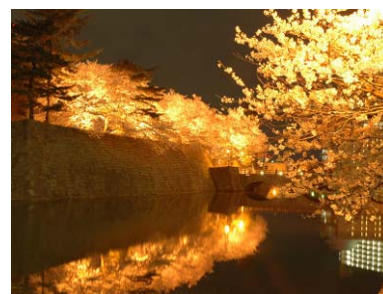
（堀誠一郎氏 提供）

（２）主要な界隈（福井都心地区）における夜間景観



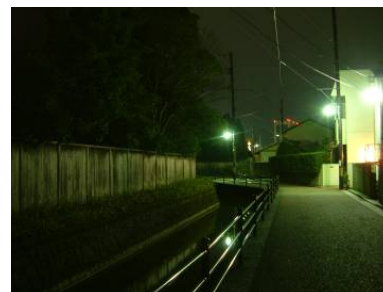
◆JR 福井駅周辺

- ・JR 福井駅は採光部を多く取り入れており、ここから漏れてくる昼白色の光によって白っぽい空間となっています。
- ・東口にある AOSSA は広場に面する側がガラス張りとなっており、建物内部の光によって福井駅と統一感が感じられます。
- ・福井駅周辺土地区画整理事業が行われており、西口の再開発と合わせて、今後新しい光が増えてくる場所です。
- ・また、冬季においては、市と民間団体との協働によるイルミネーションが行われています。



◆福井城址周辺

- ・笏谷石でできた石垣は色温度の低い光源でライトアップ（ライトダウン）されており、城址周辺の回遊ルート、近年整備された御廊下橋も同様の光源を用いた街路灯が整備されています（欄干には蛍光ランプが設置）。
- ・石垣の上及び周辺の回遊ルートにある桜は、春になるとライトアップされます。



（堀誠一郎氏 提供）

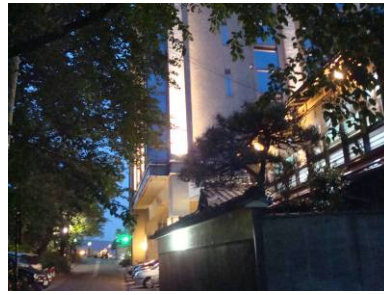
◆養浩館庭園周辺

- ・郷土歴史博物館の舎人門及び石垣は色温度の低い光源でライトアップされています。
- ・御泉水公園内も同様の光源を用いた低ボール照明が設置され、養浩館庭園の入口にはガス灯が設置されています。
- ・養浩館庭園の周辺は主に住宅地で、外周道路には防犯灯のみ設置されています。
- ・養浩館庭園内では、春季に地元組織によるライトアップが行われています。



◆中央 1 丁目周辺

- ・駅前電車通り、駅前南通り、ガレリア元町では、アーケード等からの色温度の高い光により明るい雰囲気となっています。
- ・北の庄通り、アップルロードでは色温度の低い街路灯が整備され、北の庄通りは季節によって色温度を変えています。
- ・これらの通りでは、商店街や民間団体と市との協働によるイルミネーションが季節に応じて行われています。



◆浜町界限

- ・現在は防犯灯による照明が中心ですが、舗装のグレードアップや河川改修等と合わせた街路灯の整備が計画されています。
- ・料亭などの玄関口から漏れてくる光が浜町界限の個性を特徴づけています。
- ・近年では、外構を良好にライトアップしている建築物、夜間の見え方にも配慮された建築物が増えてきています。



◆足羽山周辺

- ・足羽山へ登る愛宕坂には、普段は色温度の高い足下灯が千鳥に配置され、春季のイベント時には行灯が設置されます。
- ・足羽山（足羽三山）は市街地を見下ろす視点場でもあり、良好なパノラマ景観が広がっています。



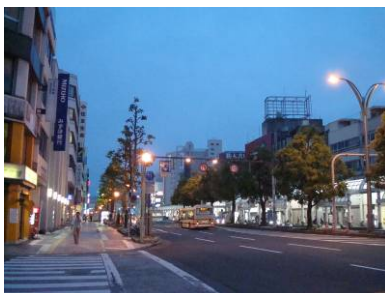
◆足羽川沿い

- ・春季には、ぼんぼりによる桜並木のライトアップ、堤防を利用した菜の花ロードのライトアップが行われていますが、通常時には光（照明）は全くなく、真っ暗な状況になります。
- ・足羽川に架かる幸橋、桜橋、九十九橋には色温度の低い照明が設置され、幸橋や桜橋では欄干や橋脚も演出されています。



◆フェニックス通り

- ・大名町交差点から裁判所前交差点の区間は、色温度の低い街路灯（帆船をイメージしたデザイン）で整備されています。
- ・大名町交差点～毛矢交差点の区間は、今後、色温度の高い街路灯（幸橋と同じデザイン）で整備される計画です。
- ・裁判所交差点より北側区間も現在は色温度の高い街路灯ですが、色温度の低い街路灯による整備が計画されています。



◆シンボルロード

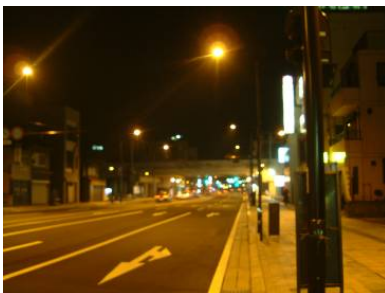
- ・JR 福井駅から大名町交差点の区間の南側は、アーケードからの色温度の高い光により明るい雰囲気となっています。
- ・JR 福井駅から大名町交差点の区間の北側及び中央帯には、色温度の低い街路灯（水仙をデザイン）が設置されています。
- ・大名町交差点から西側区間には、色温度の高い街路灯（水仙を近代風にデザイン）が設置されています。



◆大名町交差点

- ・デザインや色温度の異なる街路灯が整備されているフェニックス通りとシンボルロードが交差する大名町交差点は、それぞれの光が交じり合った空間となっています。
- ・角地に位置する建築物にはネオンサインや映像広告が設置され、まちかどに光を与えています。

（その他の主要な通りにおける夜間景観）



◆さくら通り

上：裁判所前交差点～宝永交差点
下：宝永交差点より東側区間

◆城の橋通り

上：豊島交差点より西側区間
下：豊島交差点より東側区間

上：◆東大通り

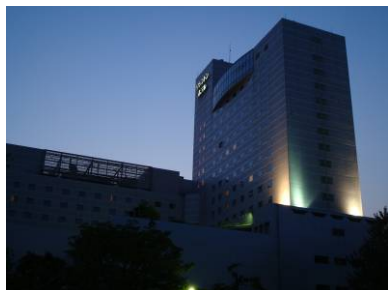
下：◆お泉水通り

（宝永交差点より南側区間）

- ・フェニックス通りやシンボルロードのほか、県が管理する路線については色温度の低い光源（ナトリウム灯）による夜間景観の統一を図っており、現在は色温度の高い街路灯についても順次統一される予定です。
- ・東大通りのケヤキ並木を利用して、市と民間団体の協働による冬季のイルミネーションが行われています。

(3) 主要な界隈（福井都心地区）においてライティングされている建築物等の例

- ・震災後約60年が経過し、建築物が一斉に老朽化を迎えている福井都心地区では、土地区画整理事業をはじめとする都市基盤の整備などに伴う建て替えが進んでおり、夜間景観あるいは夜間における来客者の誘導に配慮してデザインされたもの、外構に光を当てて形態・意匠を演出しているものが増えてきています。(p. 9～p. 11 との重複を除く)



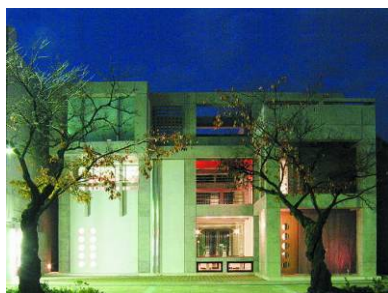
◆福井ワシントンホテル



◆ユアーズホテルフクイ



◆コマドリズム



◆ジュエリースカラベ



◆安久薬局



◆渡辺写真館



◆江守商事ビル



◆セーレン(株)新館



◆北陸電力福井支店社屋鉄塔



◆福井市文化会館

(堀誠一郎氏 提供)



◆旧足羽揚水ポンプ場



◆柴田神社、北ノ庄城址

4. 福井市の夜間景観における主な課題

空間全体に関する課題	① 夜間景観に関する市民の関心を高める ・ 福井らしい景観の形成に向けて、平成元年の「福井市都市景観基本計画・1989」の策定以降、様々な景観行政に取り組んできた結果、景観に対する市民や事業者の意識の高まりが見られる反面、関心のない人・低い人が依然として多く見られます。 ・ このような状況の中、夜間景観についても同様な傾向にあるため、今後さらに市民や事業者に対して夜間景観への関心を高めていく必要があります。 ② 安全・安心な暮らしを支える光の充実 ・ 住宅地や集落では防犯灯の設置を行っていますが、住宅等のない区間、大規模な施設や空地がある場所では防犯灯は設置されていません。夜間における真っ暗な状況は、犯罪や事故発生の危険性が高まることから、安全で安心に暮らせる環境を地域が一体となって創出することが重要です。 ・ 光による生態系や生活・交通環境などへの影響を考慮する必要があるとともに、特に近年では、地球温暖化などの環境問題の観点から省エネルギー対策が重要視されています。
主に公共空間に関する課題	③ 照明環境の多様さと調和 ・ 夜間景観の整備・演出に関する明確な方針や指針がなく、場所ごとに整備を行っており、光源の光色などが不揃いで、路線や境界に統一感・連続性がなく、地域の特徴を感じ取ることができない、歩きたい気持ちにさせない状況になっています。 ・ また、老朽化あるいは経年により退色・剥色した照明器具は、昼間における景観を損ねる要因にもなりかねません。 ④ 福井固有の景観資源の活用 ・ 福井城址や足羽川、足羽山などは福井市を代表する重要な景観資源であり、魅力あるまちづくりを進めるうえでも重要な要素ですが、効果的にライティングされていない、投光の方法が不適切など、夜間における活用が低い状況にあります。 ・ 養浩館庭園や一乗谷朝倉氏遺跡などでは、市民参画のもとにライトアップやイルミネーション等が行われており、地域活性化や地域に対する愛着心の醸成などに寄与しています。今後ともこれらの取り組みが継続され、他の地区へと発展していくよう、意識啓発や支援に努めていく必要があります。（※セミパブリック空間の課題と共通） ⑤ 夜間景観を楽しむ場所の創出 ・ 地形的条件から夜間景観を楽しむ（眺望する）場所は限られていますが、それらの場所が視点場として有効に整備されていません。 ・ 福井都心地区では、夜間景観を楽しませるための仕掛けづくりが不足しています。

主に私的空間に関する課題	⑥ 夜間景観を考慮した建築物等のデザイン ・建築物については、窓等の内側から発せされる光を活かすとともに、光を当てた際に陰影ができるよう外構に変化をもたせるなど、魅力ある夜間景観の形成にも配慮してデザインすることが重要です。 ・特に商業空間においては、ショーウィンドーや店先からの光も重要ですが、夜の演出方法に魅力が感じられない、閉店や消灯時間が早いなど、商業空間全体として夜間景観への配慮や夜の賑わい性に欠ける面があります。 ・また、市役所や文化施設などの公共公益施設は、多くの人が集まる場所であるとともに、民間建築物を誘導する先導役としても良好にデザインすることが必要です。 ⑦ 周辺環境と調和する照明環境 ・自然環境や歴史的環境に優れた場所、閑静な住宅地の周辺や集落地などにおいても過度な照明やライトアップが行われるなど、周辺環境への配慮が不足している場合が見られます。 ・また、屋外広告物については、投光を行うものや内照式のもの、ネオンサイン、近年では LED を用いたものが増えていますが、明るすぎるものや周囲への漏れ光が多いものなど、夜間景観への配慮に欠けたものが見られます。 ・過度に明るい照明やライトアップ、周囲への漏れ光などは、周辺の生活環境や都市活動、動植物の生息・生育に対して光害となる場合があります。
主にセミパブリック空間に関する課題	⑧ 市民、事業者、行政の協働・連携 ・市民や事業者によるライトアップやイルミネーションなどの取り組みが行われていますが、それぞれが単発的であり、地域全体としての連続性や広がり、発展性に乏しい面があります。 ・夜間景観に関しては、明るければよいという傾向が全国的にも見られ、夜間景観を良好なものとするための光のデザインの仕方や取り組み方などに関する情報・知識が十分とは言えない状況にあります。 ⑨ 夜間における回遊性の創出（特に福井都心地区における課題） ・福井都心地区には、玄関口として再整備が進められている JR 福井駅周辺、福井城址や養浩館庭園などの歴史資源など、良好にライトアップされた建築物など、夜間景観を楽しむ上での資源となるものは点在しており、都心地区全体の夜の魅力や賑わいを創出するためには、これらを効果的に結びつけることが重要となります。 ・しかし、舗装のグレードアップなどにより昼間は歩きたくなる雰囲気であっても、夜間になると歩きにくい通りや歩きたくないと感じる通りがあります。 ・また、主要な通りでは街路灯が整備されていますが、“一歩先へ”行ってみたくなる気持ちにさせるような仕掛けが不足しています。 ・特に裏通りなどは真っ暗な道もあり、安心して歩ける環境になっていない状況もあります。

5. 魅力ある夜間景観形成の目標

(1) 夜間景観形成の基本理念

- ・ 福井の個性や地域特性に適し、夜間においても福井らしさが感じられ、夜間においてより魅力が増すような景観を目指すため、以下の3つを基本理念として掲げます。

基本理念① 福井の風土にあった光の環境を整えます

- ・ 色とりどりの光や眩しい光により煌々と照らされた夜間景観ではなく、美しい自然に歴史・文化が溶け込んでいる、日本の原風景が感じられる“福井らしい景観”に調和した夜間景観を形成するため、明るさを抑えた、眩しさのない光の環境を整えます。
- ・ 夏季は高温多湿、冬季は降雪と曇天が続く福井特有の気候に対して、光が与える印象・効果（涼しさや暖かさ）を活用し、季節に応じた光の使い分けなどの工夫を凝らします。

基本理念② 地域や景観資源の特性に応じた光を使用します

- ・ 自然環境や歴史性、都市的華やかさ、シンボル性など、地域や景観資源の特性などに応じて適切な光源を使用し、公共空間と私的空間、さらにはセミパブリック空間が一体となって、良好な夜間景観の形成を目指します。
- ・ 福井における都市構造や景観の骨格を形成するような通り・空間においては、街路灯などによる光の統一を図り、軸としての連続性やシンボル性を高めます。
- ・ 優れた形態・意匠を有する建築物や構造物、多くの人が集まり華やぐような場所においては、演色性の高い光源を使用し、対象となるモノや空間が有している本来の“美しさ”を夜間においても演出します。

基本理念③「明」と「暗」、「光」と「陰影」を効果的に使い分けます

- ・ 足羽三山や東山、国見岳などからの夜間の眺望に対して『明の空間』を際立たせ、福井の地形や都市構造を浮かび上がらせるため、田園や山間部等では不必要な光を抑制します。
- ・ 夜間景観の整備・演出が特に重要な福井都心地区にあっても、行く先の期待感などを演出するため、“暗い部分（暗さの中にある温かみ、仄暗さ）”を上手く活用します。
- ・ 建築物や構造物などに対してライトアップ等を行う際には、それらの形態・意匠を的確に把握し、投光によってできる「陰影」にも配慮して光源を設置します。

(2) 夜間景観形成の目標

- ・ 魅力ある夜間景観の形成を市民、事業者、行政の協働により推進し、全国に向けてPRしていくため、目指すべき目標（夜間景観像）を次のように定めます。

やさしい光が織りなすまち ぶくい

夜間の賑わいを創出しつつ、何度も訪れたいと思えるようなやさしい光が織りなす魅力ある夜間景観、また、市民が誇りをもち、光によって福井らしさが感じられるような美しい夜間景観の形成を目指します。

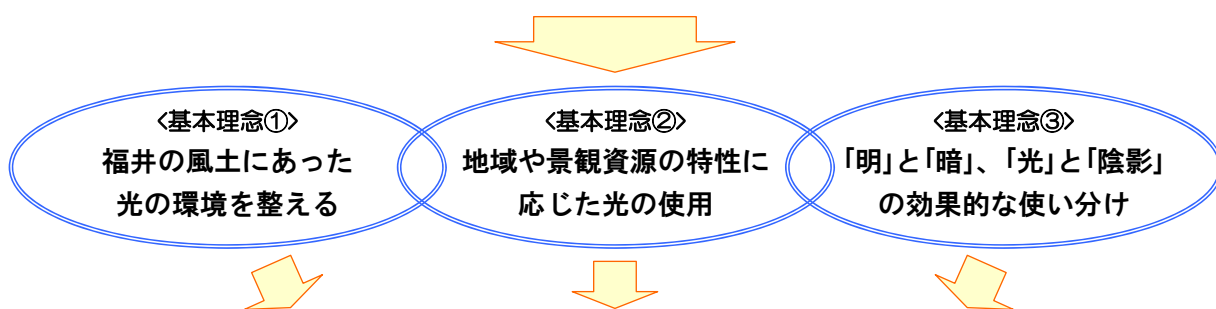
6. 魅力ある夜間景観の形成に関する基本方針

(1) 基本方針の体系

- ・夜間景観の課題に対応し目指すべき夜間景観像の実現を目指すため、3つの基本方針を定め、各種施策や事業と連携するとともに、市民、事業者との協働により推進します。

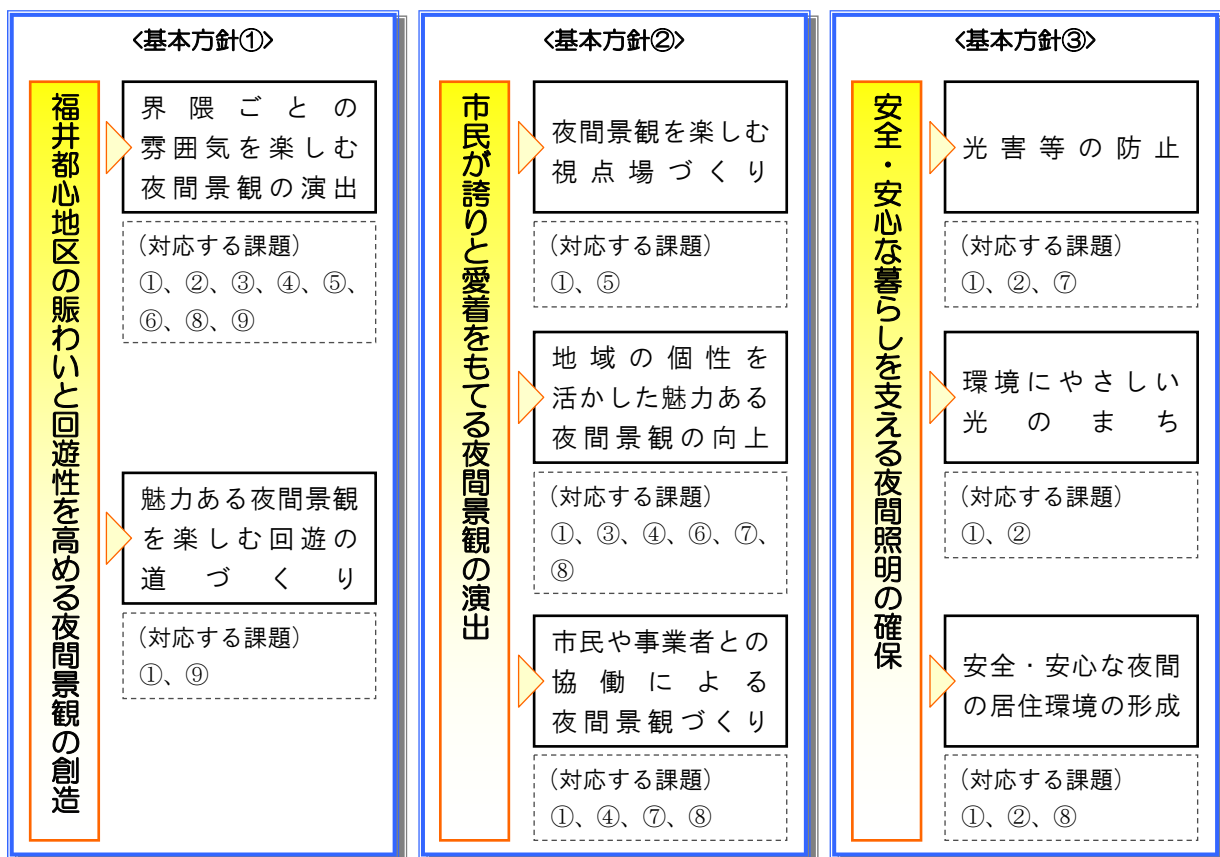
〈夜間景観における主要課題〉

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ①夜間景観に関する市民の関心を高める | ⑥夜間景観を考慮した建築物等のデザイン |
| ②安全・安心な暮らしを支える光の充実 | ⑦周辺環境と調和する照明環境 |
| ③照明環境の多様さと調和 | ⑧市民、事業者、行政の協働・連携 |
| ④福井固有の景観資源の活用 | ⑨夜間における回遊性の創出 |
| ⑤夜間景観を楽しむ場所の創出 | |



〈夜間景観形成の目標〉

やさしい光が織りなすまち ふくい



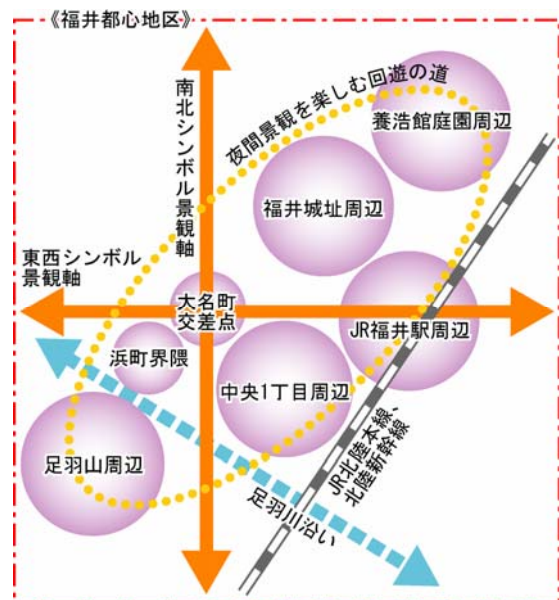
(2) 魅力ある夜間景観の形成に関する基本方針

基本方針① 福井都心地区の賑わいと回遊性を高める夜間景観の創造

- 福井らしさをもっとも実感できる福井都心地区では、商業、業務、歴史、自然等の資源の集積性を活かしながら、魅力ある夜間景観の創出に重点的に取り組みます。
- 商業活性化や観光振興などのまちづくり施策と連携しながら、夜間における賑わいや楽しさを創出します。
- 界索性やテーマ性などを考慮した夜間の回遊ルートを設定し、“一步先へ”行ってみたくくなるような仕掛けづくり、行く先の“期待感”が感じられるような演出を行います。
- 建築物や街路灯などは夜間の見え方も意識してデザインするとともに、陰影にも配慮して光で演出し、さらに、ショーウィンドーなど建築物の内側から発せられる光も効果的に活用しながら、公共空間と私的空間が一体となって夜間景観を良好に演出します。

i) 界限ごとの雰囲気を楽しむ夜間景観の演出

- ・福井都心地区は、県都福井市の玄関口である JR 福井駅及びその周辺の都市的空間、中心市街地における賑わいの核となる商店街、福井を代表する歴史資源である福井城址や養浩館庭園、まちの目印である足羽山や足羽川、ランドマークとなる建築物など、特性の異なる景観資源・要素が幾重にも織りなしている場所です。
- ・このため、各界限及び各景観軸の特性を踏まえた夜間景観の将来像(テーマ)を設定することで、それぞれのテーマのもとに公共空間と私的空間の光が一体となって界限や景観軸の魅力を創出します。
- ・このうち、南北・東西のシンボル景観軸となるフェニックス通りやシンボルロードなどの通りにおいては、暖かみのある光による統一を図り、人々や車両の往来を誘導します。
- ・また、足羽山、まちかどや広場空間、橋詰や橋中などの整備・演出を図り、出逢いや楽しさがあり、誇りが感じられるような視点場として活用します。



界限（ゾーニング）と景観軸の構成

ii) 魅力ある夜間景観を楽しむ回遊の道づくり

- ・良好に整備・演出された界限の夜間景観を楽しむことができるよう、安全で快適に歩くことのできる歩行者空間の整備・充実を図ります。
- ・各界限間を結び、都心地区全体としての回遊性を高めるため、モデルとなる夜間回遊ルートを設定し、光やサインによりルートを示すとともに、仄暗さを活かして次への期待感を高めながら、一步先へと人々を誘導していきます。

(※本方針に関する詳細は、「8. 福井都心地区における夜間景観の魅力創出に向けた整備イメージ」を参照)

基本方針② 市民が誇りと愛着をもてる夜間景観の演出

- 夜間景観を良好に整備・演出するとともに、まちかどや橋詰、山頂部などにおいて、夜間景観を楽しむ視点場を整備・演出します。
- 地域における景観資源として活用すべきものの形態・意匠やその周辺の環境などを十分に考慮して、もっとも適切かつ効果的な光によって演出します。
- 地域のイベント等と連携するとともに、市民や事業者の意識を高めながら主体的な取り組みの継続・発展を促し、協働により愛着のもてる魅力ある夜間景観を創出します。

i) 夜間景観を楽しむ視点場づくり

ア) 福井の夜間景観全体を楽しむ視点場の整備・活用

- ・福井の地形的特性から、夜間景観全体を楽しむことができる場所は、中央の「足羽三山」と東部の「東山周辺」、西部の「国見岳、下市山・深谷一帯」が主となります。
- ・これらの場所において、視点場となる広場空間や休憩施設の整備と安全対策、視点場に至るアプローチ道の整備・演出を行い、ふるさと福井に対する市民の愛着心の醸成を図るとともに、福井の夜間の魅力を全国に発信します。



国見岳からの眺望
(堀誠一郎氏 提供)



深谷霊園からの眺望
(山田清信氏 提供)



自然史博物館（足羽山）からの眺望



東山公園からの眺望

イ) 身近に夜間景観を楽しめる視点場の整備・活用

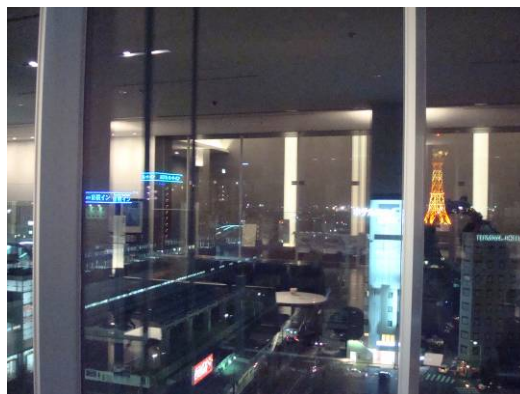
- ・足羽三山、東山周辺、国見岳～下市山・深谷一帯以外でも、城山や文殊山、槇山城址、グリーンハイツなどからも福井市街地を眺望することができ、身近な夜間景観スポットとして地域住民に親しまれています。
- ・これらの場所についても視点場としての整備・活用に努めながら、夜間景観に対する市民意識の向上と愛着心の醸成を図ります。



槇山城址からの眺望
(堀誠一郎氏 提供)

ウ) 福井都心地区における視点場の整備・活用

- ・福井都心地区においては、足羽山の愛宕坂や三段広場などが視点場の核となります。
- ・これらの場所を利用して、安全で一度に大勢の人が夜間景観を楽しむことができる視点場づくりを行います。
- ・また、平坦な地形であることから建築物の高層階も視点場として重要となり、自然史博物館、AOSSA、駅西口の再開発ビル（計画中）、商工会議所、合同庁舎などの公共的な建築物を積極的に活用するとともに、民間建築物についても協力を得ながら、夜間景観を楽しむことができる視点場を増やしていきます。
- ・このほか、大名町交差点を中心とするまちかど、足羽川に架かる橋の中や橋詰において広場空間の確保を図り、視点場や新たな出逢いが生まれる場所として活用していきます。



AOSSA からの眺望



橋中のポケットスペース（九十九橋）

ii) 地域の個性を活かした魅力ある夜間景観の向上

- ・福井市には、県都福井の中心であり「光の核」となる福井都心地区以外にも、一乗谷朝倉氏遺跡や越前水仙群生地などの福井県を代表する観光拠点があり、さらには、地域固有の景観を形成している地区や福井を代表する歴史的建造物、全国に認められている景観資源（〇〇百選など）が数多くあります。
- ・これらの資源については、地域住民が主体となってライティングやイルミネーション等を行うなど、現に活用の取り組みが見られます。
- ・福井の夜間の魅力を総合的に高めるため、今後ともこれらの景観資源の積極的な活用を図り、対象となるものの特性や形態・意匠、周辺環境等に十分に考慮しつつ、もっとも効果的な演出となるよう光をデザインします。
- ・ただし、これらの地区や建造物等は、周囲を住宅地や集落、田園や山林、海岸などで囲まれているものが多いため、周辺環境との調和に配慮することが重要であり、また、地域活性化策として地域のイベント等に合わせて取り組むことも重要となります。

＜景観形成重点地区＞

- 一乗谷地区
- 越前水仙群生地地区

＜地域固有の景観を形成しているその他の地区＞

- (旧)北陸道沿道（浅水二日町ほか）
- (旧)東郷街道沿道（東郷二ヶ町周辺）
- 東大寺領荘園（糞置荘）と文殊山（上文殊地区）
- 山あいの棚田景観（高須町一帯）

＜福井の歴史的建造物＞

町並み	浅水の家並み、木田銀座通りの町並み、東郷二ヶ町の町並み、西谷町の家並み、花堂北の家並み、浄教寺町の家並み
民家	丹巖洞草庵、おさごえ民家園、石田家住宅、村田家住宅、二本木家住宅、今村家住宅、松島家住宅、谷口家住宅、角原町の民家、鉾ヶ崎町の民家、羽坂町の民家、尼ヶ谷町の民家、国山町の民家、大谷町の民家、荒谷町の民家、細川家住宅、川尻町・両橋屋町民家、免鳥町の民家
寺院・神社	専照寺、大安禅寺、瑞源寺、泉通寺、西藤観音堂、大安寺観音堂、聖徳太子堂、泰澄寺大師堂、春日神社、教応寺、願念寺、浄光寺、性光坊、西雲寺、八王子神社、愛染寺、欣浄寺、大乘寺鐘楼門、簸川神社、白山神社、樺八幡神社、本向寺本堂、法雲寺、賀茂神社、広善寺
近代・その他	福井聖三一教会堂、旧福井信託(株)、旧足羽揚水ポンプ場、セーレン(株)本館、(有)小倉金物、豊岡家住宅、清水家住宅、養浩館、池田家長屋門、小澤家長屋門、毛利家長屋門、北菅生町の蔵、一乗谷朝倉氏遺跡、大安禅寺千畳敷、通安寺狛家廟所、足羽山公園
土木	小和清水発電所

〈全国に認められている景観資源（〇〇百選など）〉

さくら名所 100 選	足羽川・足羽山公園
日本の渚百選	越前海岸
夕日百選	越前海岸（越前町）
日本 100 名城	一乗谷城
日本百名橋	九十九橋
中部の駅百選	ハーモニーホール駅
元気のある商店街 100	福井駅前商店街
続 元気のある商店街 100	田原町商店街
都市景観大賞	西部緑道（景観形成事例部門：小空間レベル、平成 7 年）
日本の歴史公園 100 選	養浩館庭園、北の庄城址公園
美しい日本の歴史的風土 100 選	戦国大名朝倉氏一乗谷遺跡、松平家城下町の遺産

（※以上、福井市景観基本計画より）



一乗谷朝倉氏遺跡唐門のライトアップ



越前朝倉万灯夜



上文殊火祭り（清水喜彦氏 提供）



田原町ろうそくイルミネーション

iii) 市民や事業者との協働による夜間景観づくり

ア) 夜間景観に対する市民意識の醸成

- ・市役所をはじめとする公共施設や道路、公園、河川等の公共空間は、市民や事業者の取り組みの先導役となるような夜間景観の整備・演出を行い、市民意識の醸成を図ります。
- ・「都市景観賞」や「福井の景観再発見」などを通じて良好に演出された建築物等や市民・事業者などの活動例を積極的に紹介しながら、夜間景観づくりの輪を広げていきます。
- ・また、モデルとなる夜間の回遊ルートを示したルートマップを作成・配布し、魅力ある夜間景観のPRと夜間の回遊を誘導します。



市民等による夜間景観の演出の例



市民等による夜間景観の演出の例

イ) 夜間照明に対する適正な技術や情報の提供

- ・不適切な光によるライトアップ等は、対象物の形態・意匠だけでなく、その地域全体のイメージを損ね、さらには、周囲の環境に対して光害となる恐れもあります。
- ・本ガイドラインを参考に、光の性質や照明に関する基礎的な知識の普及と啓発を図るとともに、光が良好にデザインされた建築物等の事例を紹介する場や機会を増やしながら情報の提供を行い、市民や事業者の取り組みを誘導していきます。



良好にライティングされた建築物の例



良好にライティングされた建築物の例

ウ) 市民・事業者との協働による取り組みの推進

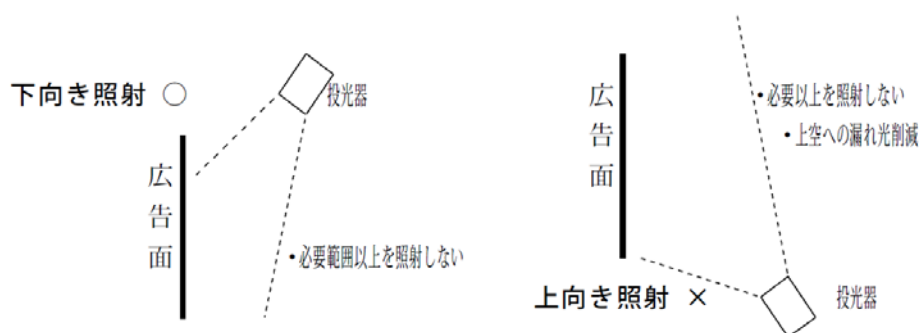
- ・LEDなどの新技術の開発・普及により、市民や事業者が手軽にイルミネーションなどを楽しめるようになり、市民や事業者の取り組みが活発化しています。
- ・これらの活動に関する団体や商店街、事業者、大学、地域住民などとの情報の共有化・連携を図り、光の輪がつながった、より魅力的な夜間景観の創出に努めます。
- ・また、行政と協働で取り組むなど、活動が継続して行われるよう支援していきます。

基本方針③ 安全・安心な暮らしを支える夜間照明の確保

- 周辺の住環境や交通環境、生態系等に対して光害とならないなど、眩しさのない照明環境を整備します。
- 門灯による一軒一灯運動など地域住民の協力を得ながら、夜間も安全で安心して外出できる地域環境を形成します。

i) 光害等の防止

- ・近年、屋外照明の不適切な使用や過剰な使用により、生態系への悪影響や交通への障害、住環境の快適性の低下などといったいわゆる「光害」が問題となっています。
- ・このため、対象物への光の当て方の工夫、適切な照明器具の使用による上空や周囲への漏れ光の抑制、照明による不快な眩しさ（グレア）の低減などを図るとともに、自動販売機や屋外広告物への投光など、通行時に目に入りやすい照明についても適切に誘導していきます。（※光害対策については、「7. 夜間景観における照明の要件」を参照）

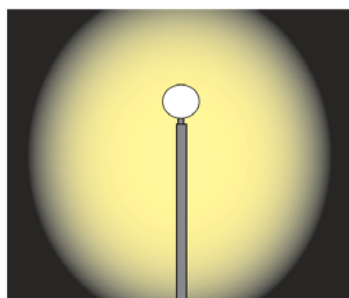


光害を防止するための光の照射方法（広告物の例）

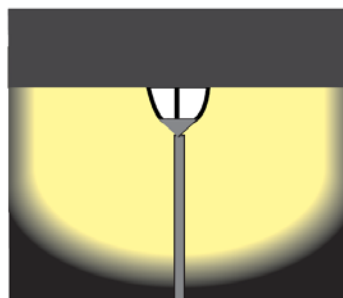
（出典：環境省 光害対策ガイドライン）

ii) 環境にやさしい光のまち

- ・照明器具の設置に当たっては、太陽エネルギーや風力エネルギーをはじめとするクリーンエネルギーを採用するなど、自然環境に与える負荷の軽減にも配慮します。
- ・また、エネルギーを効率的に使用するため、できる限り効率の高い光源や照明率の高い照明器具を使用します。
- ・このほか、点灯時間の抑制や調光制御など照明を適切にコントロールするとともに、星空観察会に合わせた一斉消灯なども有効と考えられます。



配光を考えていない街路灯



配光を考えている街路灯

（出典：環境省 地域照明環境計画策定マニュアル）

iii) 安全・安心な夜間の居住環境の形成

- ・ 歩行者や夜間の通行の安全性を確保し、また、ひったくりや痴漢、建物への侵入等の犯罪の発生を防止するため、街路灯や防犯灯を適切に配置するとともに、住宅の門灯の設置・点灯など地域住民の協力を得ながら、過剰な明るさや暗闇を排除します。



門灯による夜間の居住環境向上の例



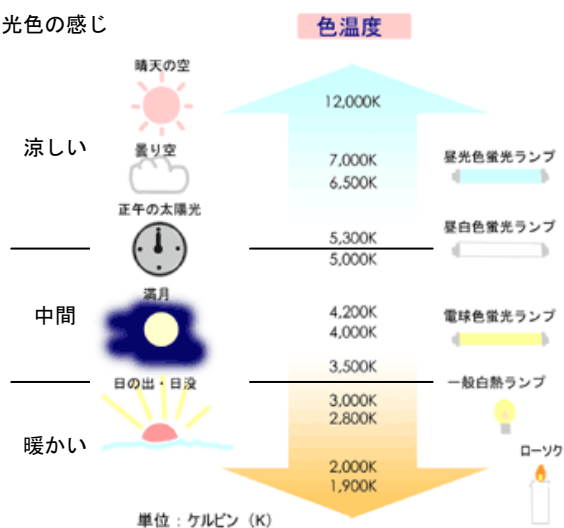
門灯による夜間の居住環境向上の例

7. 夜間景観における照明の要件

(1) 光色と演色性

①光色（色温度）

- ・色温度とは、光色を表わす1つの尺度で、光色の感じ
物体が高温に熱せられると光を放射し、
温度に応じて光の色が変わる事を利用して、
光色を温度で表わし、これを色温度
と呼びます。
- ・色温度はK（ケルビン）で表され、一般
に色温度が低いと赤っぽいオレンジが
かった暖かみのある光となり、色温度が高
くなるにつれて日中の太陽光のような白
っぽい光となります。さらに高くなると、
青味がかったさわやかな光となります。

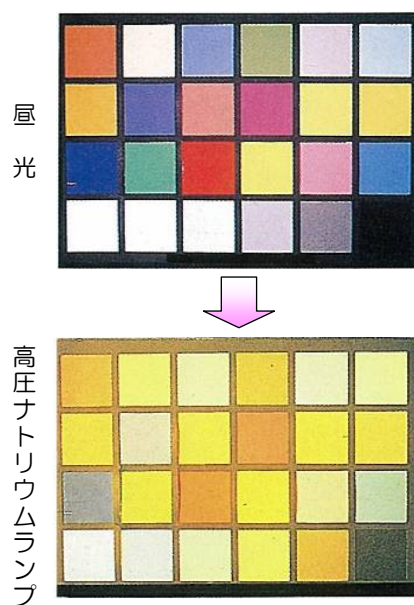


- ・太陽が昇ると活動をはじめ、夜になると休息するという人の生活リズムがあります。人の生活リズムは自然界のサイクルが基準になっていて、もっとも影響しているのは自然光（太陽光）といわれています。
- ・人を活動的にし、作業や勉強に適した環境をつくるには、色温度の高い、太陽光や天空光をイメージした白色または昼光色の蛍光灯の光が、心身をリラックスさせ、やすらぎを演出する場合には、色温度の低い、夕日を思わせる赤みをおびた白熱灯の光が最適です。

（出典：「株式会社 村内ファニチャーアクセス」ホームページ）

②演色性

- ・演色性とは、光源によって照らした時の物体の色の見え方を決める光源の性質のことをいい、光源の演色性が高いほど照らされる対象物の色を忠実に再現するため、光の品質といえます。
- ・光源の演色性は、平均演色評価数という数値で表されます。演色性が最も良い場合が100で、低下するほど数値が小さくなります。
- ・多数の人が使用する場所の照明には、色彩が不快に見えないような演色性の良い光源の使用が望まれます。
- ・木の葉の緑や紅葉の紅のように、特定の色を引き立てる場合には、平均演色評価数のほかに特殊演色評価数の高い光源の使用も有効です。



(2) 照度の基準

- ・照度は低すぎても高すぎても目にはよくありません。いろんな場所や環境に応じて、それぞれに適した明るさの基準が JIS で推奨されています。

通路、広場、公園の照度基準値

場 所		照 度 (lx)
通路 (地上)	アーケード、商店街 (繁華) *1	200～750
	アーケード、商店街 (一般) *1	100～300
	商店街 (繁華)	30～100
	商店街 (一般)	10～ 50
	市街地	5～ 30
	住宅地	1～ 10
交通関係広場	駅前広場、空港広場 (交通量大)	10～ 75
	駅前広場 (一般)	2～ 30
公 園	主な場所	5～ 30
	その他の場所	1～ 10

*1 深夜には、1/10～1/20の照度の残置灯を設置する。

備考 1.本表は、主として歩行者のための公共施設について規定したものである。

2.主として自動車交通を対象にした照明については、下記の基準による。

(イ) 自動車交通の用に供する道路は、JIS Z9111(道路照明基準)。

(ロ) 自動車交通の用に供するトンネルは、JIS Z9116(トンネル照度基準)。

(ハ) 横断歩道は、JIS Z9114(横断歩道照明基準)。

3.通路には階段を含む。

歩行者のための路面の推奨照度

場 所 の 分 類		推 奨 照 度 (lx)	
使用状況 他	周囲の明るさ	水 平 面 照度 (Eh)	半円筒面照度または鉛直面照度 (Esc) (Ev)
夜間の使用が大	明 る い	20	4
	中 程 度	15	3
	暗 い	10	2
夜間の使用が中	明 る い	10	2
	中 程 度	7.5	1.5
	暗 い	5	1
夜間の使用が小	明 る い	7.5	1.5
	中 程 度	5	1
	暗 い	3	—
階段、急なスロープ	明 る い	20	4
	中 程 度	15	3
	暗 い	10	2

(出典：環境省 地域照明環境計画策定マニュアル)

- ・また、照度と色温度の関係をみると、一般に、低い色温度では比較的低い照度で快く、高い色温度では比較的高い照度が好まれます。

(3) 主な光源と特徴

- ・景観照明に用いられる光源には主に以下のような種類があり、光を当てるモノや場所の特性に応じて適切に使い分けることが重要となります。
- ・また、省エネルギー対策の観点からは、効率性が高く、集光（光が出る方向の調整）の容易な光源を使用することが重要となります。

景観照明に用いられる主な光源の種類と特徴

光源の種類 \ 特徴項目	寸法	効率	光色	演色性	寿命
一般照明用電球	小	低	暖	高	短
ミラー付ハロゲン電球	小	低	暖	高	短
両口金ハロゲン電球（投光用）	小	低	暖	高	短
電球形蛍光ランプ	小	高	暖、中、涼	高	中
コンパクト形蛍光ランプ	小、中	高	暖、中、涼	高	長
直管形蛍光ランプ	中	高	暖、中、涼	高	長
透明水銀ランプ	大	中	涼	低	長
蛍光水銀ランプ	大	中	中	中	長
高演色形メタルハライドランプ	中	高	暖、中	高	長
一般形メタルハライドランプ	大	高	中	やや高	長
高演色形高圧ナトリウムランプ	中	高	暖	高	長
高圧ナトリウムランプ	大	高	暖	低	長
発光ダイオード（LED：白色）	小	低、中	暖、中	高	非常に長い

□発光ダイオード（LED）について

・発光ダイオード（LED）の現状

LEDは、省エネ対策として有望な光源の1つである。信号機、自動車用表示灯への普及は急速に進んでいるが、一般照明への普及はこれからである。一部に実用化が図られている。

照明用としてのLEDは、ダウンライトや常夜灯といった間接照明や補助灯の役割が多く、部屋の中を明るく照らす“主照明”として使われる段階には今のところ至っていない。主たる理由は、効率がまだ低く、製品コストも高いために蛍光ランプ等に及ばないことである。現在、LEDメーカーではこれらの短所を克服するために技術開発を進めている。

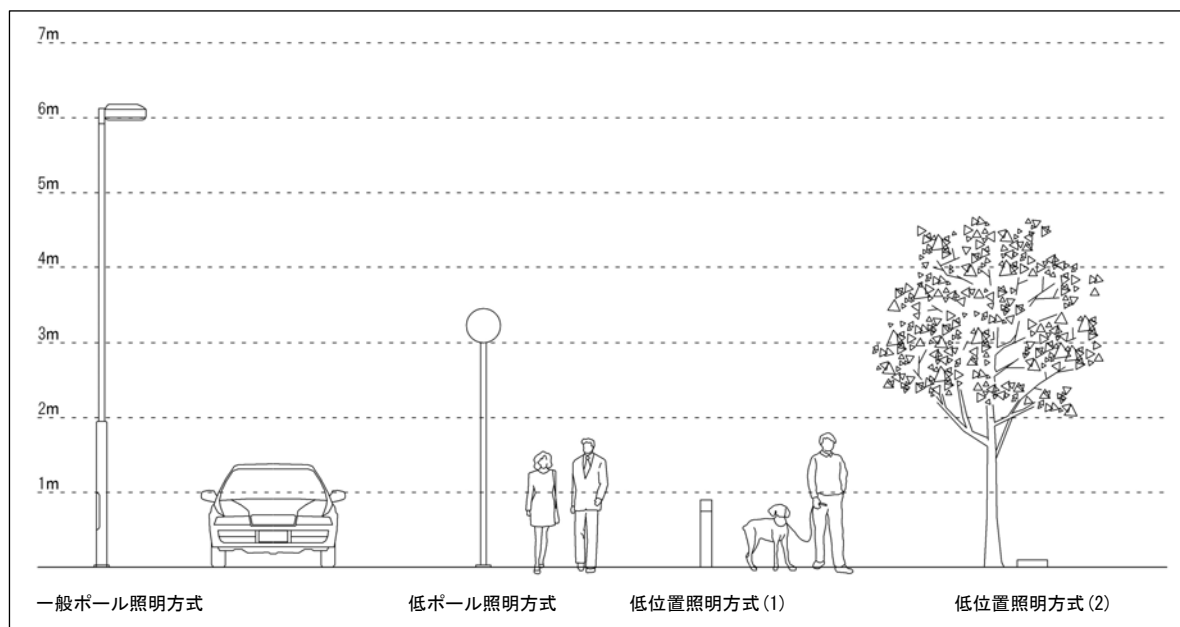
（出典：社団法人 日本電球工業会 照明における省エネ提案）

(4) 照明方式と主な特徴

・照明方式には、主に以下の3つがあり、それぞれ以下のような特徴があります。

照 明 方 式	主 な 特 徴
一般ポール照明方式 器具高さ 4m～12m	(1) 高さの 3～4 倍の間隔に配置すれば、連続した空間での光の美しさが得られる。 (2) 標準的な照明器具が使いやすい。 (3) 個性的な器具やポールのデザインが比較的容易である。 (4) 光の制御が比較的容易に出来る。
低ポール照明方式 器具高さ 1m～4m	(1) 人間に近く位置し、親しみを感じさせたり、暖かさを与えやすい。 (2) 保守管理が比較的容易である。 (3) “光と陰影”の演出がしやすく、また、広場内のアクセントとなる。 (4) デザイン的に種々の形状のものがつくりやすい。
低位置照明方式 (地中埋設照明方式を含む) 器具高さ 1m 以下	(1) 光のアクセントをつける。 (2) 地上に彩りを与え、やすらぎの感を与える。 (3) 保守管理が最も容易である。 (4) 誘導もしくは注意を促すのに効果的な位置にある。

(出典：照明学会 照明基礎講座テキスト)



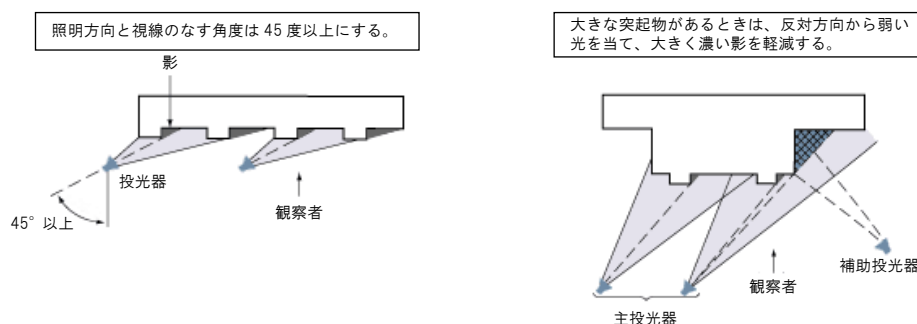
(5) 照明計画における留意点

①照明対象と光の当て方

- ・建築物や構造物等に対して光を当てる際には、細かい明暗の変化が生じ、輪郭が明瞭になるように照明を考えることが重要であり、照明の対象となるものによって望ましい光の当て方は異なります。

対象	留意点	良好な照明の例
建築物	・全体を均一に照明して平面的に見せると「目立ち」「落ち着き」及び総合評価（美しさ）が低下する。 ・従って、凸凹が多い建物を選定し、それによって生じる陰影がはっきり分かるように、また、輪郭が明瞭に際立って見えるように照明することが重要になる。	
構造物	・背景が暗い場合には、鉄骨構造対などが暗い背景に発光体のように見え、「目立ち」「落ち着き」及び総合評価（美しさ）がすべて向上する。 ・即ち、細かく強い輝度対比が生じる「トラスト構造物」のようなものを選択することがポイントになる。	
植栽	・幹中心の照明は「落ち着き」や「美しさ」の評価が悪いが、葉中心の照明にすれば逆に評価が高くなる。 ・従って、幹を目立たせず、しかも葉がある程度の広がりを持って光るように照明する。 ・光源としては、透明タイプの水銀ランプが適する。	

- ・また、凹凸のある壁面等に対して光を当てる場合には、“陰影”を上手く活用することが重要であり、光を当てる角度などに配慮することが必要です。



(出典：照明学会編：照明ハンドブック第2版（2003）、岩崎電気株式会社ライティング講座)

②光害の防止

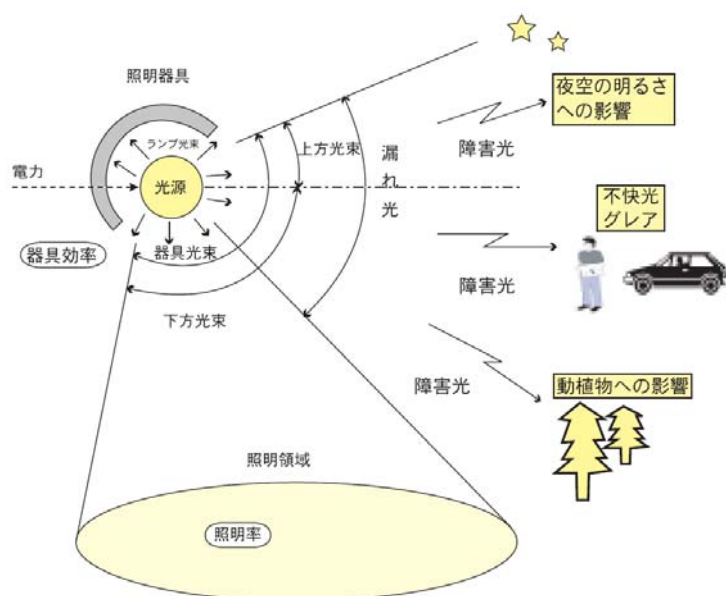
- ・「光害（ひかりがい）」については、環境庁「光害対策ガイドライン」において以下のように定義されており、必要な照度、照明目的を確保しつつ、周囲への悪影響を低減することが適切な光害対策となります。

良好な「照明環境」の形成が、漏れ光^(※1)によって阻害されている状況又は、それによる悪影響を「光害」と定義する。狭義には、障害光^(※2)による悪影響をさす。

※1 漏れ光：照明器具から照射される光で、その目的とする照明対象範囲外に照射される光。

※2 障害光：漏れ光の内、光の量若しくは方向又はその両者によって、人の活動や生物等に悪影響を及ぼす光。悪影響には、夜空の明るさの増大、人に対するグレア^(※3)、動植物の生育への影響などがある。

※3 グレア：視野の中に他の部分より著しく輝度(明るさ)の高い物体(光源など)の存在によって不快感や見え難さを生ずる視覚現象。激しいまぶしさを生ずる。障害光のひとつである。



主な照明用語とその関係

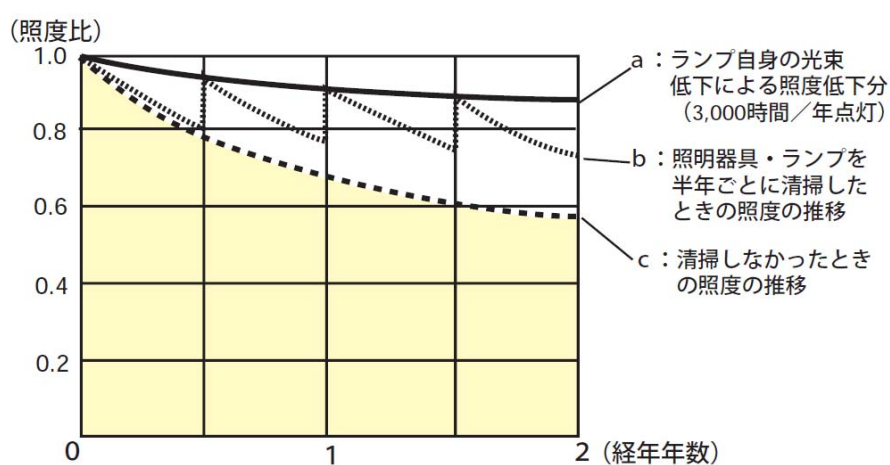
	周囲が暗く、目が暗さになれているほどまぶしい
	光源の輝度が高いほどまぶしい
	視線に近いほどまぶしい
	見かけの大きさが大きいほどまぶしい

まぶしさを起こす諸条件

(出典：環境省 地域照明環境計画策定マニュアル)

(6) 照明設備の保守と更新

- ・照明設備は、使用するに伴って汚れたり変色したりして、少しずつ性能が低下します。
- ・性能が低下すると、空間や景観資源を適正に演出することができないだけでなく、電力の消費量は少なくならないのに照明は暗くなるため、照明システムの効率が低下し、エネルギーの無駄が増加します。
- ・このため、照明設備は定期的に点灯状態を点検・管理し、清掃・修繕に努める必要があります。
- ・また、長い年月の使用により老朽化した照明設備は、良好な景観を形成する観点からも更新を検討する必要があります、定期的に清掃・修繕に努めるとともに、時代や地域特性に合った適正なデザインのものを使用することが重要となります。



照明器具の使用時間と照度の関係

(出典：環境省 地域照明環境計画策定マニュアル)

8. 福井都心地区における夜間景観の魅力創出に向けた整備イメージ

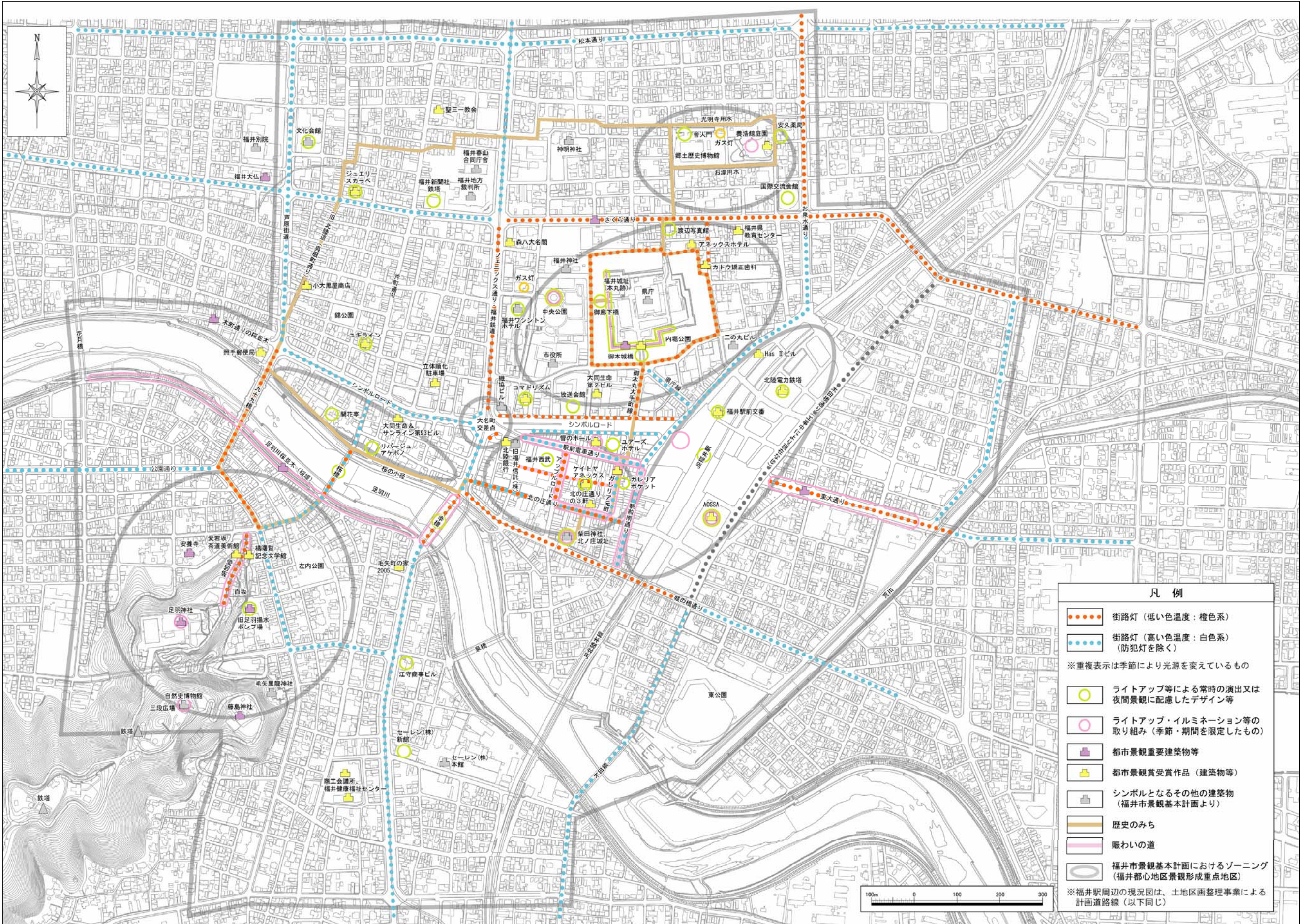
(1) 福井都心地区の範囲と夜間景観形成の重要性

- ・福井都心地区は、JR 福井駅を玄関口として、福井城址や養浩館庭園、まちの目印である足羽山や足羽川をはじめとする景観資源が幾重にも織りなしている場所であり、「福井市景観基本計画」において“もっとも福井らしさを実感できる場所”と位置づけられており、「景観形成重点地区」の1つに定められています。
- ・また、「福井市景観計画」において、特に重点的な景観の整備、保全、演出を図るべき地区として、当地区の一部が「特定景観計画区域」に指定されています。
- ・当地区は、商業、業務、行政、観光、交流機能をはじめとする多様な都市機能や景観資源が集積し、多くの人が訪れる場所です。
- ・また、土地区画整理事業をはじめとする都市基盤の整備などを契機として、建築物の更新が進んでいる地区であり、魅力ある夜間景観を演出するために「光」を計画的に誘導する大きな契機を迎えています。



福井都心地区の範囲

(2) 福井都心地区における夜間景観の整備・演出等の状況



(3) 界隈ごとの夜間景観の整備・演出イメージ

① JR 福井駅周辺

《夜間景観形成のテーマ》

新たな交流と出逢いを生む、おもてなしの玄関口

《夜間景観形成の基本方針》

- 福井を訪れた人をやさしく迎え入れ、良好な都市イメージを印象づけるため、JR福井駅を中心として、統一感のある夜間景観を形成します。
- 単なる交通結節点ではなく、人が自然に集まり、新たな交流や出逢いが生まれるような魅力的な広場空間とともに、駅前広場などの公共空間と周囲の建築物等が一体となって、都会的でセンスの良い夜間景観を形成します。
- 訪れた人や電車待ちの人々を地区内（各界隈）へと導く回遊の起点として、テーマ性にも配慮しながら光による誘導を行います。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



《夜間景観形成のテーマ》

《夜間景観形成の基本方針》

- 福井市発展の歴史を物語る中心として、市民が誇りに感じるような風格ある夜間景観を形成します。
- 笏谷石の石垣の美しさを際立たせながら、隣接する中央公園と一体となって夜間も楽しめる光の散歩道を形成します。
- 市役所等の公共施設は、民間建築物の先導役としても良好に演出します。

凡 例

- 主要な歩行者導線
- 公園、広場空間等の光
- 光の仕掛けづくり
- 主要な夜間景観の視点場
- 福井城址の石垣の光
- 眩しい光の抑制

・城址全体のライティング
・笏谷石の石垣の風格や美しさを浮かび上がらせる演色性の高い光源
・石垣の凹凸による陰影や水面への映り込みを意識した光源の配置
・桜や松を活かしたライトアップ

・養浩館庭園周辺へ誘導するための光の仕掛けづくり

・福井城址の眺望を阻害する眩しい光の抑制

・福井城址の風格と調和した光、夜間も散策できる公園づくり
・市民等との協働によるイルミネーション

・視点場としての演出、活用

・片町界隈への誘導

・民間建築物の先導役としての公共空間のライティング

・福井城址の風格と調和する落ち着いた光の回廊づくり

・中央1丁目周辺との回遊を誘導する光の仕掛けづくり

・光による公園の演出

・福井城址周辺を周遊させる光の仕掛けづくり

・福井城址周辺へ誘導する光の仕掛けづくり
・福井城址への期待感の演出

100m 0 100

③ 養浩館庭園周辺

《夜間景観形成のテーマ》

文化の薫り高い落ち着いた光

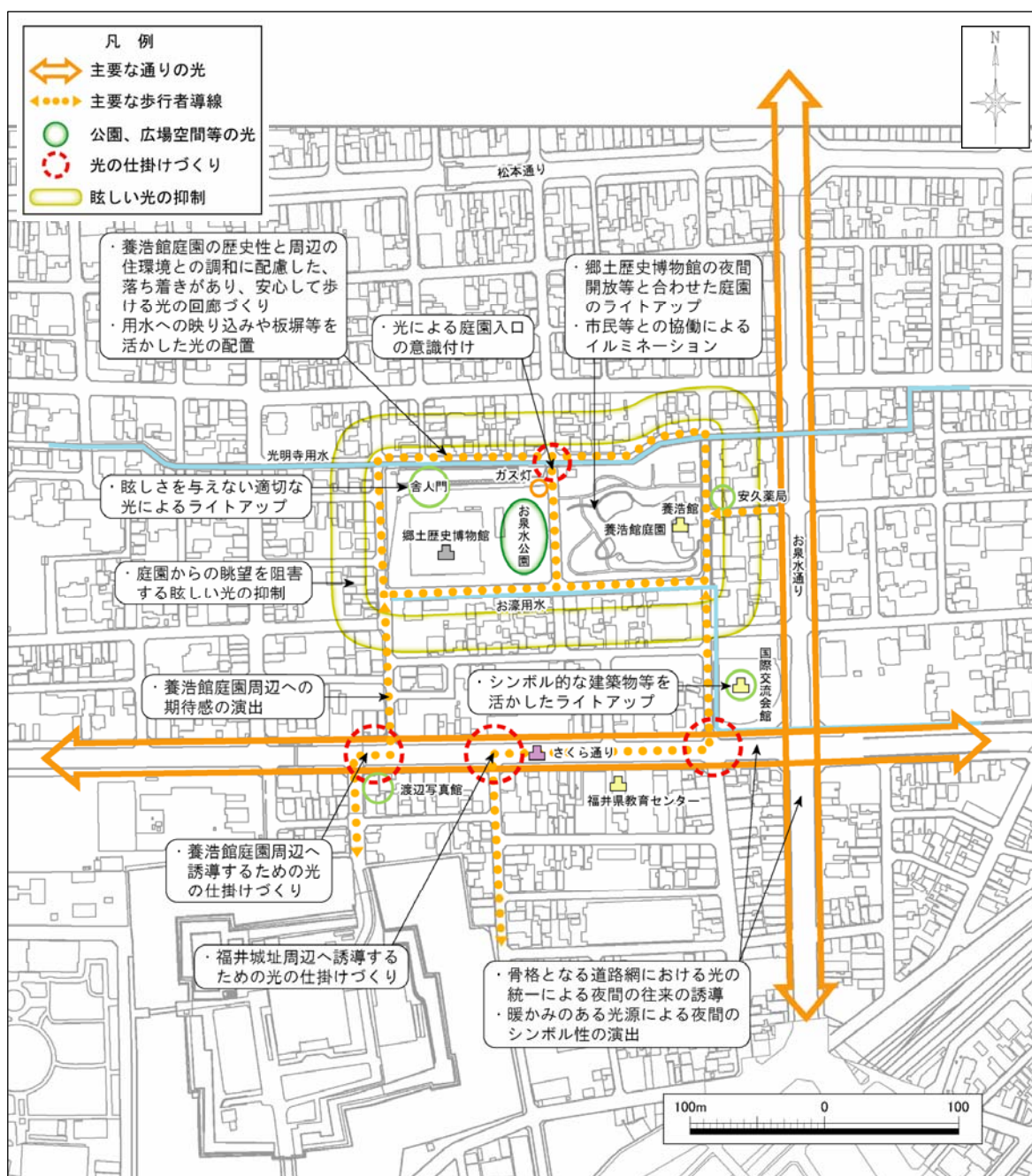
《夜間景観形成の基本方針》

○歴史と周辺の住環境が一体となった、落ち着いた雰囲気のある安全・安心な夜間景観を形成します。

○光明寺用水やお濠用水を活かしながら、潤いのある灯りの散歩道を形成します。

○郷土歴史博物館・舎人門や養浩館庭園への眺望だけでなく、特に養浩館庭園からの眺望に配慮し、周辺における眩しい光を抑制します。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



④ 中央1丁目周辺

《夜間景観形成のテーマ》

楽しさや品が感じられるオシャレな光

《夜間景観形成の基本方針》

- 商店街としての通りごとの特性や北ノ庄城址の歴史性を活かしながら、変化が楽しめる空間として界隈全体の回遊性を創出します。
- ショーウィンドーや店先などの建築物からの光を良好に演出し、楽しさや品が感じられるオシャレな夜間景観を形成します。
- 祭りやイベントなどの“ハレ”の舞台として、夜間も賑わいや楽しさが感じられる夜間景観を形成するとともに、季節に応じたイルミネーションなどの魅力づくりに商店街や市民と協働で取り組みます。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



⑤ 浜町界隈

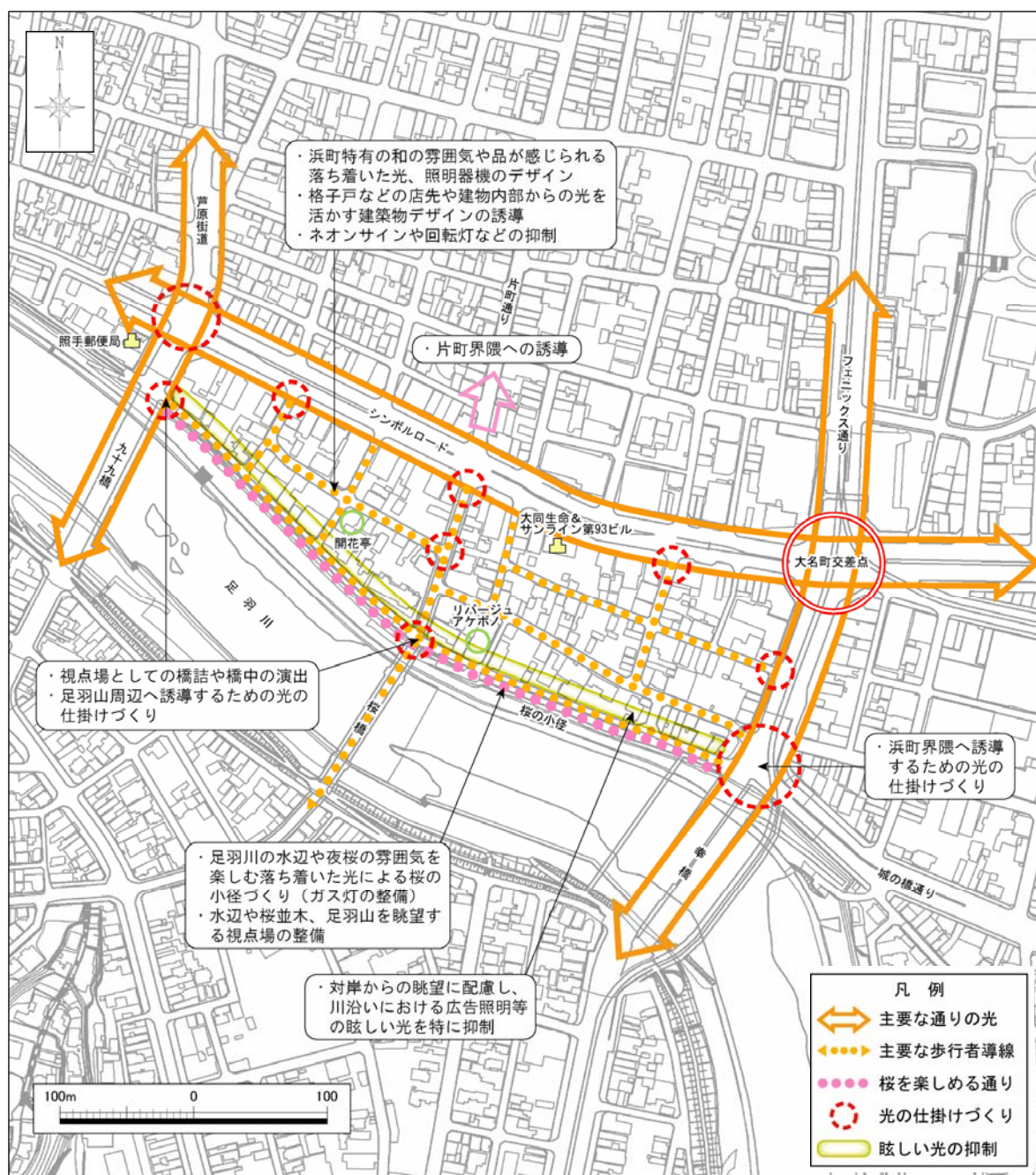
《夜間景観形成のテーマ》

和が感じられる上品なおもてなしの光

《夜間景観形成の基本方針》

- 浜町特有の和や歴史的な雰囲気を活かして、趣のある落ち着いた夜間景観を形成します。
- 店先や玄関口などからの光を良好に誘導しながら、料亭街としての雰囲気を楽しみながら歩ける回遊の空間を創出します。
- 足羽川の水辺や桜並木を活かし、楽しみながら歩ける光の小径や視点場を整備します。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



⑥ 足羽山周辺

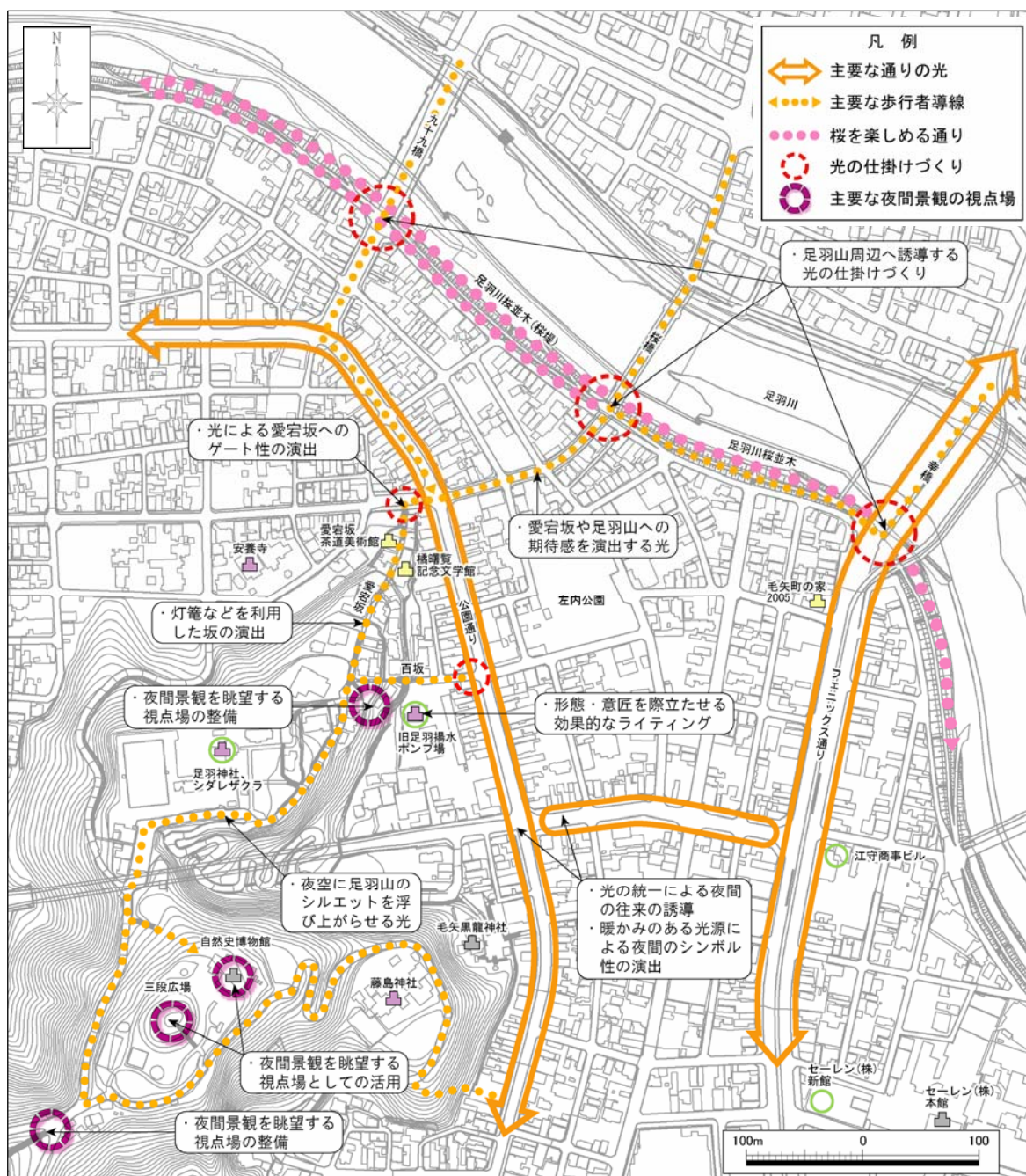
《夜間景観形成のテーマ》

優美な山並みが醸し出す風情のある光

《夜間景観形成の基本方針》

- 優美な山並みの稜線を活かして、夜間もまちの「目印」となる夜間景観を形成します。
- 浜町界隈や足羽川からの人の流れを灯りによって誘導するとともに、愛宕坂などの坂を活かしながら、足羽山の回遊性を高めます。
- 夜間景観を楽しむ視点場として、三段広場や自然史博物館などを積極的に活用するとともに、新たな視点場づくりを進めます。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



⑦ 足羽川沿い

《夜間景観形成のテーマ》

桜並木と水辺が楽しめる安らぎの光

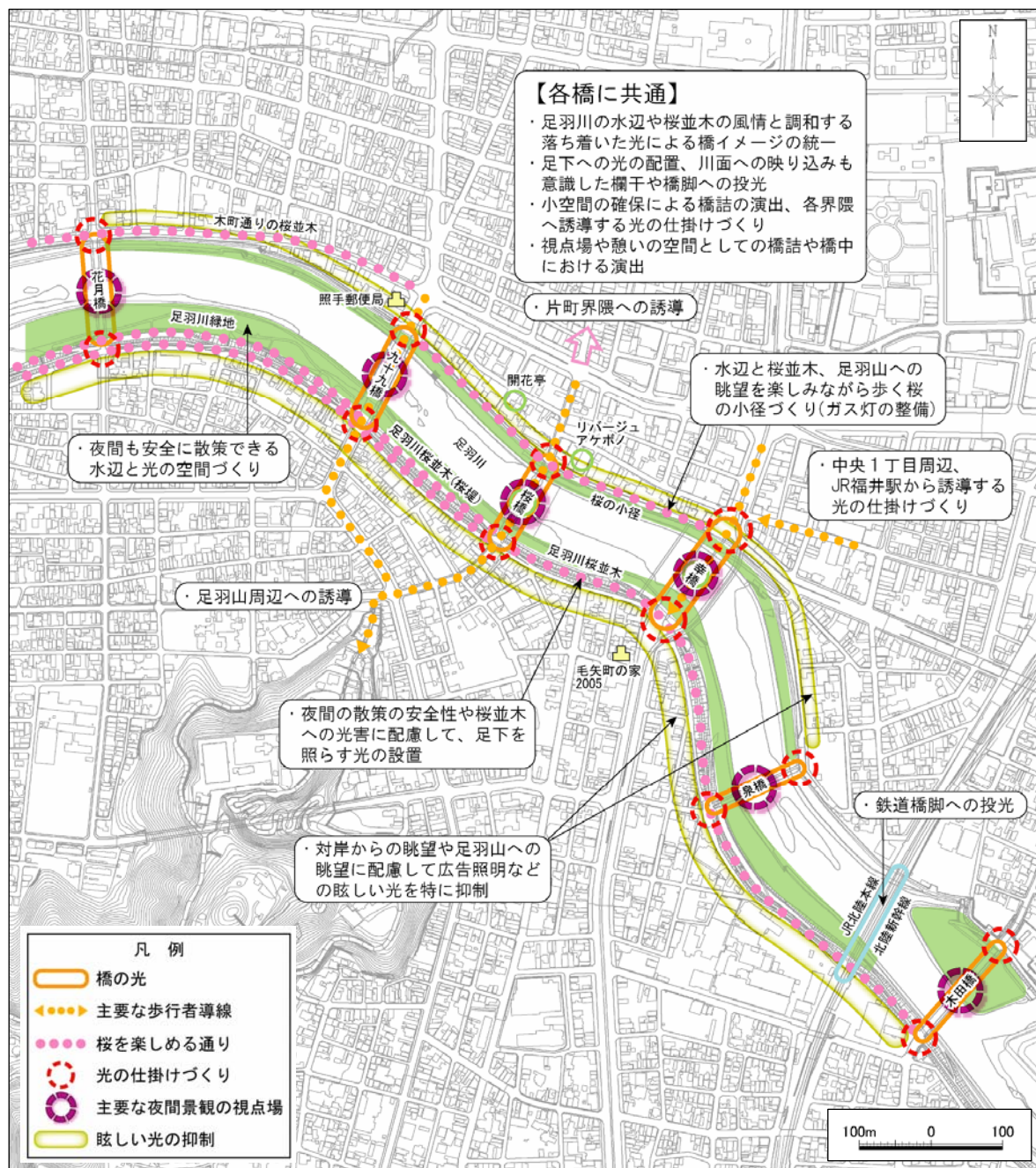
《夜間景観形成の基本方針》

○市民が誇りに思う桜並木や足羽川の水辺に一年を通して親しめるよう、やさしい光がいざなう散歩道を形成します。

○広大な河川敷を利用して、夜間も人が憩い、散策できるような光の空間を形成します。

○水辺に映えるアクセントとして統一感のある光により橋をライトアップするとともに、桜並木や水辺を楽しむ視点場として整備・活用します。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



《夜間景観形成のテーマ》

《夜間景観形成の基本方針》

- “フェニックス”の名にふさわしい、風格のある夜間景観を形成します。
- 祭りなどの“ハレ”の舞台の中心として、華やかさのある夜間景観を形成します。
- 街路灯のデザインを含めて夜間照明を統一し、連続性のある夜間景観を形成します。
- 路面電車を活かしながら、福井固有の夜間景観として演出します。

凡例

- 主要な通りの光
- 主要な歩行者導線
- 光の仕掛けづくり
- 主要な夜間景観の視点場

・視点場としての高層建築物の活用
福井春山会同庁舎
福井地方裁判所

・形態・意匠を際立たせる効果的なライティング

・光源や照明デザインの統一による連続性の創出、夜間の往來の誘導
・暖かみのある光源による夜のシンボル性の演出
・路面電車の石畳を際立たせる光の仕掛けづくり（埋設式照明など）
・駅舎の再整備・光による演出
・路面電車を活かした動きのある光
・ハレの空間としての賑わいの創出

・片町界隈への誘導

・松本通り

・主要なまちかどを演出する光の仕掛けづくり

さくら通り

森八大名園

・福井城址周辺への誘導

フェニックス通り・路面電車

中央公園

福井ワシントンホテル

機協ビル

大町交差点

シンボルロード

・福井を代表するまちかどの象徴化

・中央1丁目周辺への誘導

・浜町界隈への誘導

・足羽川沿い、足羽山への誘導

毛矢町の家2005

・足羽山への誘導

江守商事ビル

・足羽山へ誘導する光の仕掛けづくり

・橋詰の演出

・視点場としての演出

セーレン(株)新館

セーレン(株)本館

商工会議所

福井健康福祉センター

・路面電車の起終点となる光の仕掛けづくり

100m 0 100

N

⑨ 東西シンボル景観軸（シンボルロード）

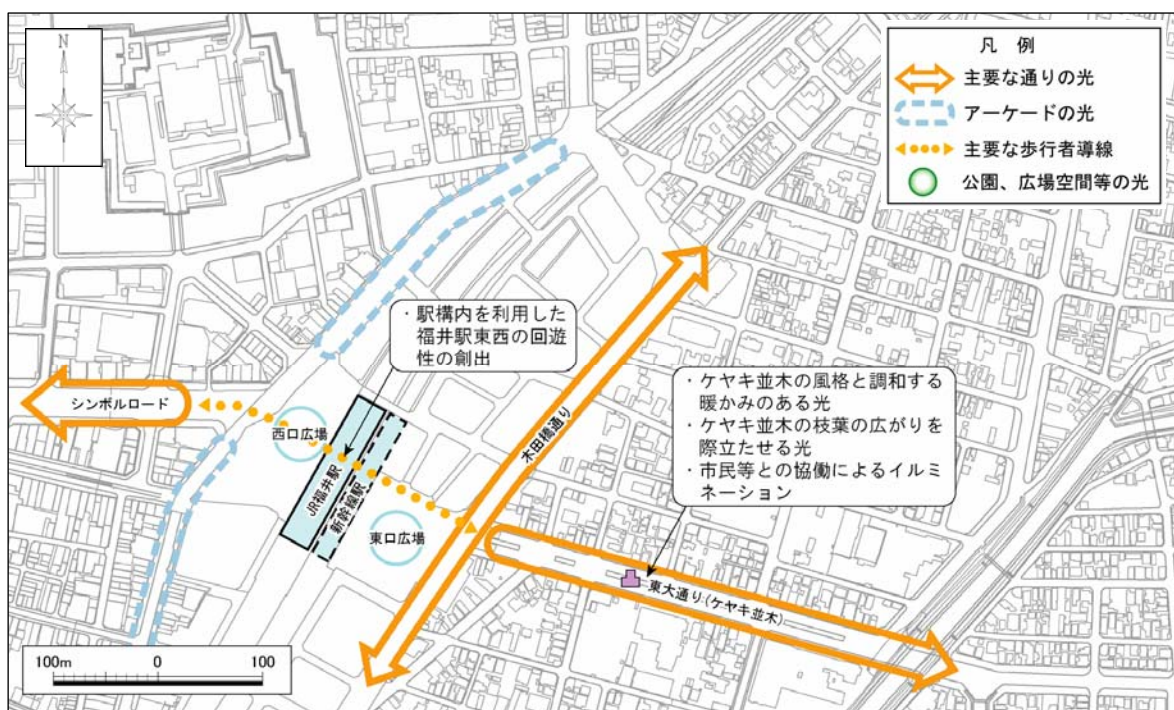
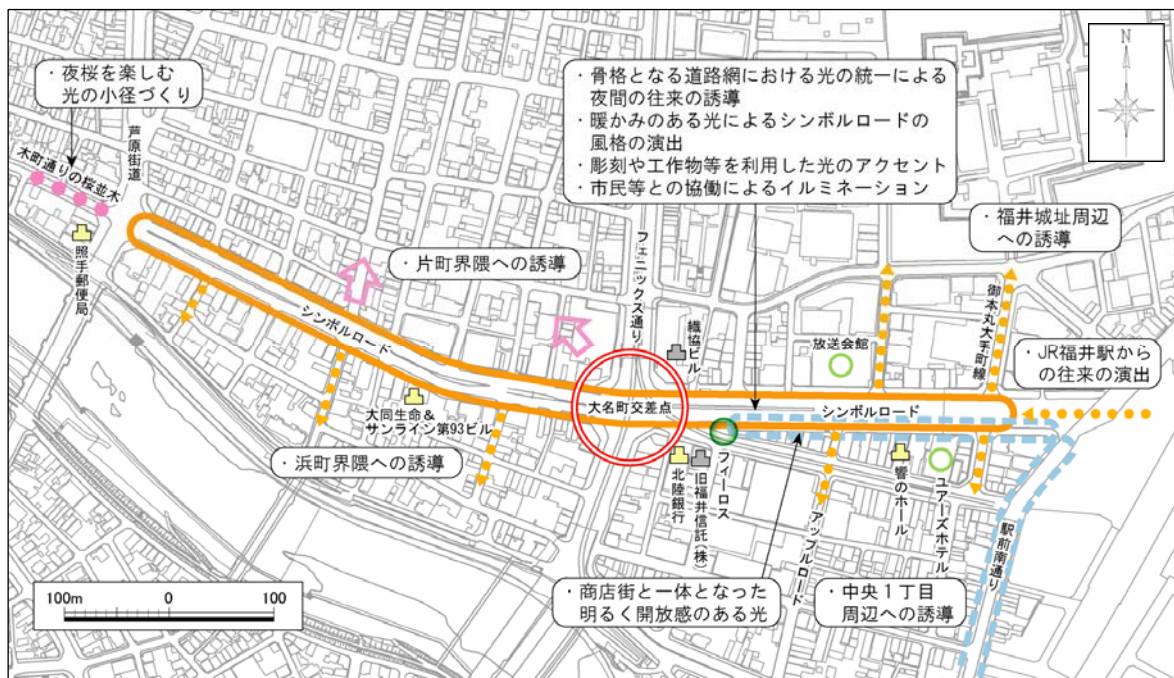
《夜間景観形成のテーマ》

夜間の往来をいざなうシンボリックな光

《夜間景観形成の基本方針》

- 沿道の建物と一体となって、福井駅の正面に延びるシンボルロードにふさわしい風格ある夜間景観を形成し、人々の往来をいざないます。
- 街路灯のデザインを含めて夜間照明を統一し、連続性のある夜間景観を形成します。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



⑩ 大名町交差点

《夜間景観形成のテーマ》

福井を代表するまちかどの光

《夜間景観形成の基本方針》

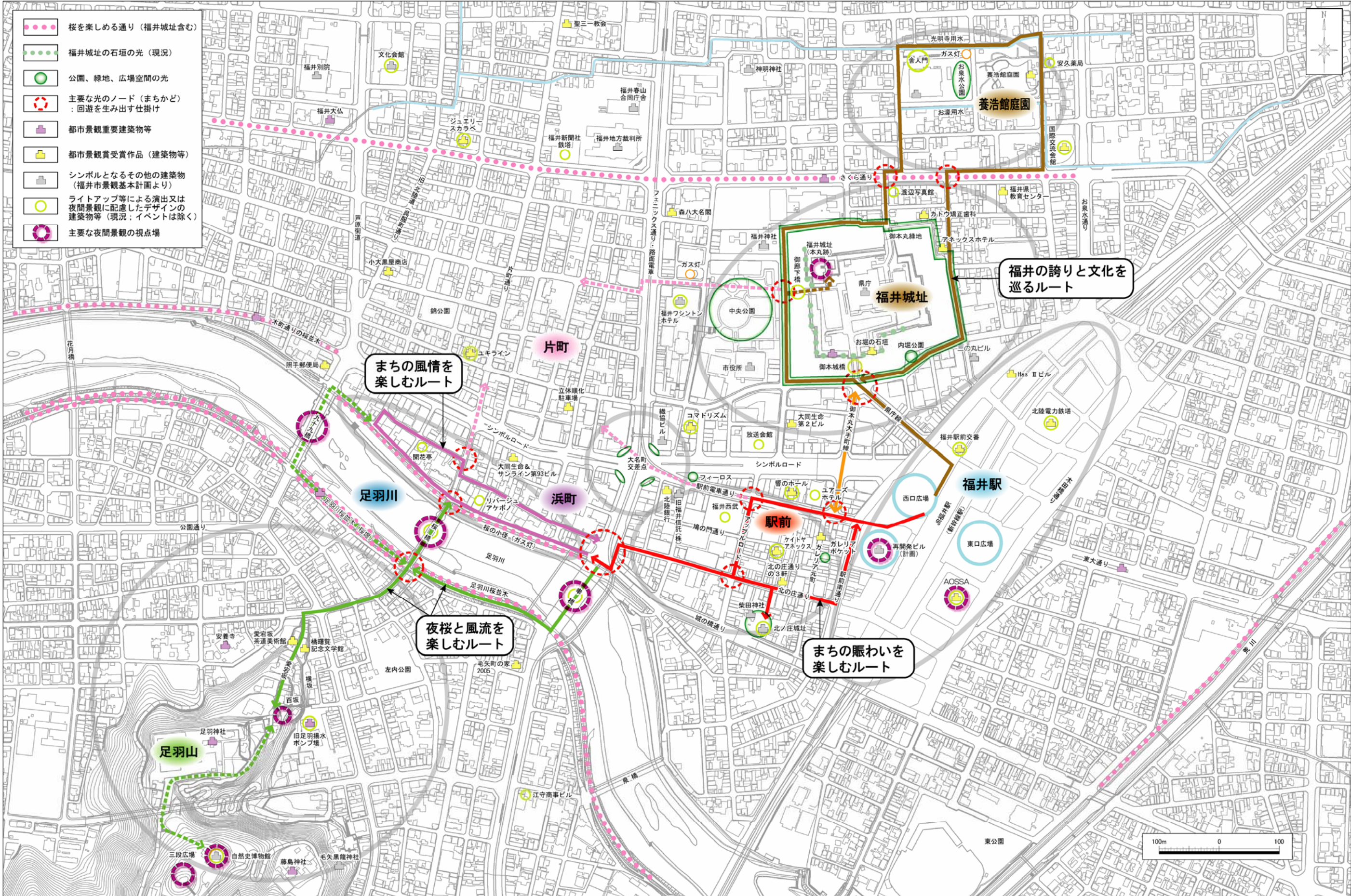
○南北と東西のシンボル景観軸が交差するまちの「へそ」、夜間景観の中心地にふさわしい、福井のまちかどを象徴する夜間景観を形成します。

○角地に位置する建築物と一体となって、量感が感じられる夜間景観を形成します。

《夜間景観の整備イメージ（例）》



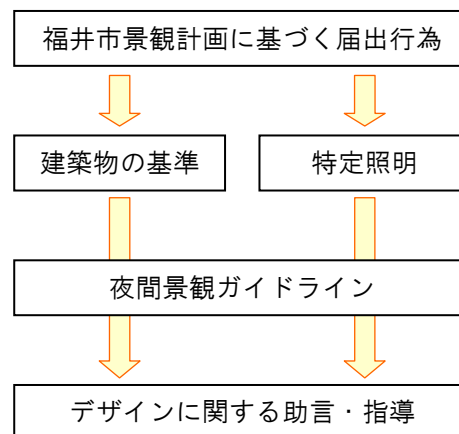
(4) 魅力ある夜間景観を楽しむ基本的な回遊ルート(案)の設定



9. 光のデザインに関する今後の取り組み方

① 私的空間・セミパブリック空間における光のデザイン

- ・景観法に基づく『福井市景観計画』における建築物の景観形成基準として、福井都心地区特定景観計画区域（「都心部ゾーン」「中央1丁目ゾーン」「浜町通り界限ゾーン」）については、窓等開口部からの光を演出するための基準を設けています。
- ・また、建築物や工作物等の外観に対して、その形態・意匠を演出するためにライトアップ等を行うものを「特定照明」として届出を義務付けています。
- ・今後、この届出があった際に、本ガイドラインに基づいて適正な助言・指導を行い、光を良好に誘導していきます。



② 公共的空間における光のデザイン

- ・福井市では、『高感度コンパクトシティ』を目標に掲げながら、特に中心市街地の活性化に重点的に取り組んでおり、現在、大規模な都市基盤整備が進められているとともに、今後も、ソフト・ハード事業を含めて様々な取り組みが予定されています。
- ・今後、庁内各課相互や関係機関との連絡・連携体制をより一層強化し、都市基盤・都市環境整備等の事業が計画される場合において魅力ある夜間景観が形成されるよう、本ガイドラインに基づいて協議・助言を行っていきます。
- ・また、この際には、景観審議会の開催やパブリックコメントの実施、社会実験等のモニタリングなど、必要に応じて市民や有識者・専門家等の意見を反映する場を設けます。

